

高等学校地歴・公民科科目の在り方に関する特別チームにおける検討事項

1. 高等学校の地理歴史科、公民科に置く新科目の内容の検討について

(1) 「歴史総合（仮称）」

- ① 当該科目を通じて育むべき資質・能力について、特にどのような思考力・判断力・表現力等（事象を捉える教科・科目特有の視点や考え方など）を育むか
- ② 歴史の転換等を捉えた学習の在り方
 - ・歴史の転換期の軸
 - ・学習対象となる時代
- ③ 日本と世界の動きの関連付け

(2) 「地理総合（仮称）」

- ① 当該科目を通じて育むべき資質・能力について、特にどのような思考力・判断力・表現力等（事象を捉える教科・科目特有の視点や考え方など）を育むか
- ② 地理教育に求められる今日的要請への対応

(3) 「公共（仮称）」

- ① 当該科目を通じて育むべき資質・能力について、特にどのような思考力・判断力・表現力等（事象を捉える教科・科目特有の視点や考え方など）を育むか
 - ・様々な課題を捉え、考察するための基準となる概念や理論
- ② 公民教育に求められる今日的課題への対応

2. 高等学校地理歴史科、公民科に置く科目間の関係の整理（高等学校における各科目の標準単位数を含む）について

(1) 「歴史総合」と「地理総合」の地理歴史科としてのまとめ

- (2) 新設する科目（「歴史総合」「地理総合」「公共」）について、高校生として共通に求められる資質・能力を確実に育む共通必修科目の設計と生徒の興味・関心や進路に応じた選択科目の設計（高大接続の観点を含む）

3. 小・中学校社会科等と高等学校地理歴史科、公民科との内容の系統性について

- (1) 小学校社会科・中学校社会科の各分野（地理的分野、歴史的分野、公民的分野）と高等学校の関係教科・科目の内容の系統性

4. その他

- (1) 適切な指導がなされるための要件（周知・広報、研修等）

社会・地理歴史・公民ワーキンググループにおける検討事項

1. 社会・地理歴史・公民科を通じて育成すべき資質・能力について
 - ・社会・地理歴史・公民科を学ぶ本質的な意義や他教科との関連性について
 - ・三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
 - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
 - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
 - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性など）
 - ・特にii)に関わって、どのような思考力・判断力・表現力等（事象を捉える教科・科目特有の視点や考え方など）を育むかについて
 - ・幼稚園・小学校・中学校・高等学校を通じた社会・地理歴史・公民科において育成すべき資質・能力及び内容の系統性（例えば、小・中学校における世界に関する学習の扱い、政治的教養を育むための教育の扱いなど）について
 - ・高等学校における新設科目等の具体的な内容について

2. アクティブ・ラーニングの三つの視点（※）を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき社会・地理歴史・公民科の指導等の改善充実の在り方について

3. 資質・能力の育成のために重視すべき社会・地理歴史・公民科の評価の在り方について

4. 必要な支援（特別支援教育の観点から必要な支援等を含む）、条件整備等について

※アクティブ・ラーニングの三つの視点（企画特別部会「論点整理」18ページ（及び論点整理補足資料スライド26）参照）

- i) 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。
- ii) 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。
- iii) 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

社会・地理歴史・公民ワーキングとりまとめ（たたき台案）

1 現行学習指導要領の成果と課題

社会科、地理歴史科、公民科においては、社会的事象に関心を持って多面的・多角的に考察し、公正に判断する能力と態度を養い、社会的な見方や考え方を成長させること等に重点を置いて、現行の学習指導要領に改訂され、その充実が図られてきているところである。

一方で、主体的に社会の形成に参画しようとする態度等の育成や、資料から読み取った情報を基にして社会的事象について考察し表現すること等については、更なる充実が求められるところである。

特に高等学校教育においては、自分の参加により社会をよりよく変えられると考えている若者の割合が国際的に見ても低いこと、時代の変化に耐えてきた先哲の考え方を習得し、それを手掛かりとして自己の生き方や考え方等を錬磨することに課題があること、近現代に関する学習の定着状況が低い傾向にあること、課題解決的な学習を取り入れた授業が十分に行われていないこと等が指摘されているところである。

また、これからの時代に求められる資質・能力を視野に入れれば、国家及び社会の形成者として必要な知識や思考力等を基盤として選択・判断等を行い、課題を解決していくために必要な力や、自国の動向とグローバルな動向を横断的・相互的に捉えて現代的な諸課題を歴史的に考察する力、持続可能な社会づくりの観点から地球規模の諸課題や地域課題を解決していく力を、全ての高校生に共通に育てていくことが求められる。

2 育成すべき資質・能力を踏まえた教科等目標と評価の在り方について

(1) 教科等の特質に応じ育まれる見方や考え方

各教科等を学ぶ意義は、各教科等において身に付ける資質・能力の三つの柱で整理される。これらの資質・能力の中核となるのが、各教科等の本質に根ざした見方や考え方である。「見方や考え方」とは、様々な事象を捉える教科等ならではの視点と、教科等ならではの思考の枠組みである。各教科等の多様な「見方や考え方」が総合的に育成されることによって、社会や世界の様々な事象を捉えたり関わったりすることが可能になり、また、多様な「見方や考え方」を統合的に働かせるようにすることに

よって、一つの事象を多様な角度から捉えたり考えたりすることができるようになる。

社会科、地理歴史科、公民科において育まれる見方や考え方については、これまでの学習指導要領において、社会生活に対する正しい見方、考え方の基礎（昭和33年版小学校）、社会的なものの見方や考え方（平成元年版、10年版小学校）等と、呼称を変えながらもその重要性が指摘され、平成20年の改訂では中央教育審議会答申の「社会科、地理歴史科、公民科の改善の基本方針」において、社会的な見方や考え方を成長させることを一層重視する方向が示された。一方で、中学校社会科においては地理的な見方や考え方の基礎、現代社会を捉える見方や考え方の基礎と、分野ごとの説明がなされてきたが、社会的な見方や考え方の全体像が示されるには至っていなかった。

次期改訂においては、これらの変遷や趣旨を踏まえ、社会的な見方や考え方の性格を以下のように明確化し、その充実を図ることが考えられる。

- ・ 社会的な見方や考え方は、深い学びを実現するための思考力や判断力の育成や獲得する知識の構造化に不可欠であること、主体的に学習に取り組む態度や学習を通して涵養される自覚や愛情などにも作用することなどを踏まえると、資質・能力全体の要であると考えられる。
- ・ 社会的な見方や考え方は、課題解決的な学習において、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想したりする際の「追究の視点や方法」であり、小、中、高等学校と校種が上がるに連れて追究の視点やそれを生かした問いの質が高まることで成長するものであると考えられる。

これらの社会科、地理歴史科、公民科における見方や考え方を整理すると、例えば以下のように整理することが考えられる。

- ・ 小学校社会科では、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して社会的事象を見出し、比較・分類したり総合したり、国民（人々）生活と関連付けたりして考察、構想することが考えられる。
- ・ 中学校社会科地理的分野では、絶対的、相対的など位置や空間的な広がりに関わる視点に着目して社会的事象を見出し、環境条件や他地域との結び付きなどを地域等の枠組みの中で人間の営みと関連付けて考察、構想することが考えられる。
- ・ 中学校社会科歴史的分野では、時代の転換など、時期、推移や変化などに着目して社会的事象を見出し、比較して相違や共通性などを明確にして、諸事象とその背景などの関連性に留意して原因と結果を関連付けて考察、構想することが考えられる。
- ・ 中学校社会科公民的分野では、対立と合意、効率と公正などの現代社会を捉える

概念的枠組みに着目して課題を見出し、それらの解決に向けて選択、配分など、課題の解決に用いることが必要な概念と関連付けて考察、構想することが考えられる。

- ・ なお、高等学校においては、後述するように新必修科目の設置について検討を行っており、それらの「見方や考え方」については、次のとおりである。
- ・ 高等学校地理歴史科では、共通必修科目「歴史総合（仮称）」においては、時期、推移や変化などに着目して社会的事象を見出し、比較して相違や共通性などを明確にして、因果など事象相互の関連性に留意して考察、構想することが考えられる。また、共通必修科目「地理総合（仮称）」においては、時間距離や中心性など位置や空間的な広がりとの関わりに着目して社会的事象を見出し、環境条件や他地域との結び付きなど地域等の枠組みの中で人間の営みと関連付けて考察、構想することが考えられる。
- ・ 更に、高等学校公民科では、共通必修科目「公共（仮称）」においては、幸福、公正などの人間と社会の在り方を捉える概念的枠組みに着目して課題を見出し、それらの解決に向けて民主主義、協働関係の共時性と通時性など選択・判断するための手掛かりとなる考え方と関連付けて考察、構想することが考えられる。

なお、このように、地理歴史科及び公民科で扱う学習対象は、社会の在り方や人間としての在り方生き方に関わるものを含み、社会的事象のみでないこと、また、小中学校社会科においても、社会に見られる課題の解決に向けて構想する場合などに、社会の在り方や自分たちの生活について考えることがあることを踏まえれば、社会科、地理歴史科、公民科の学習対象としては「社会的事象等」と表現することが適当であると考えられる。

以上のことを整理すれば、小学校社会科、中学校社会科地理的分野及び歴史的分野、高等学校地理歴史科においては「社会的事象等の見方や考え方」、中学校社会科公民的分野においては「現代社会の見方や考え方」、高等学校公民科においては「人間と社会の在り方についての見方や考え方」と、それぞれの教科・分野及び校種の特質を踏まえた呼称が考えられる。「社会的な見方や考え方」は、これらの各「見方や考え方」を総称する呼称として位置付けることが考えられる。

（２）小中高等学校を通じて育成すべき資質・能力の整理と、教科等の目標の在り方

社会科、地理歴史科、公民科で育成を目指す資質・能力は、「情報を伝え合ったり、情報に基づき思い合わせたりするようになるとともに、公共の施設を大切にしたり、国旗や国際理解への意識等が芽生えるようになる」などといった幼児教育で育まれる資質・能力と関わりがあると考えられる。

また、小学校低学年の生活科で目指す「自分と身近な人々及び地域の様々な場所、公共物などとの関わりに関心を持ち、地域のよさに気づき、愛着を持つことができるようになる」とともに、集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考

え、安全で適切な行動ができるようになる」などといった資質・能力ともつながるものと考えられる。

次期改訂に向けては、幼児期に育まれたものや、生活科をはじめとする小学校低学年における学習を通じて身に付けた資質・能力の上に、小中高等学校を通じて育成すべき資質・能力を、三つの柱に沿って明確化することが求められる。

社会科、地理歴史科、公民科において育成する資質・能力は、従前の教科目標の趣旨を勘案するとともに、改めて三つの柱に整理し直す観点から、社会科においては「公民的な資質・能力」、地理歴史科、公民科においては「公民としての資質・能力」とすることが考えられる。公民的な資質・能力とは、「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者を目指す資質・能力」であり、公民としての資質・能力とは、それを発展させ選挙権を有する18歳に求められる「グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力」であると考えられる。

「公民としての資質・能力」は、現行学習指導要領公民科の目標に示されている「平和で民主的な国家・社会の有為な形成者として必要な公民としての資質を養う」ことの趣旨を一層明確にするとともに、人、商品、資本、情報、技術などが国境を越えて自由に移動したり、企業など国家以外の様々な集合体の役割が増大したりしてグローバル化が一層進むことが予測されるこれからの社会において、教育基本法、学校教育法の規定を踏まえ、国家及び社会の形成者として必要な資質・能力を育むことの大切さへの意識を持つことを期待してこのような表現とすることが考えられる。

これまで学習指導要領解説（小学校社会科）で「公民的資質」として説明してきた「平和で民主的な国家・社会の形成者としての自覚」、「自他の人格を互いに尊重し合うこと」、「社会的義務や責任を果たそうとすること」は公民としての資質・能力、公民的な資質・能力に引き継がれるものと考えられる。

公民的な資質・能力及び公民としての資質・能力は、以下の三つの柱に描かれる資質・能力の全てが結び付いて育まれることを通して養われるものであると考えられる。

資質・能力の柱の第一は、社会科、地理歴史科、公民科で獲得する知識・技能である。「知識」は、社会的事象等に関する知識であり、主として用語・語句などを含めた個別の事実等に関わる知識と、主として社会的事象の特色や意味、理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関わる知識とに分けて捉えることができると考えられる。それは、社会生活に関する理解、我が国や世界の地理に関する理解、我が国や世界の歴史に関する理解、現代社会の政治、経済、国際関係に関する理解などを通して身に付けた知識である。「技能」は、これまで小学校社会科においては「観察・資料活用の技能」、中学校社会科、高等学校地理歴史科及び公民科に

においては「資料活用の技能」としてきた。これらはいずれも観察や資料活用を通して社会的事象に関する情報を収集する・読み取る・まとめる技能であり、社会科で育てる技能は「社会的事象等について調べまとめる技能」として整理することが考えられる。

資質・能力の柱の第二は、社会科、地理歴史科、公民科で育成する思考力、判断力、表現力等である。「思考力、判断力」は、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察する力、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想する力であると考えられる。前者は「社会的な見方や考え方をを用いて社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連について、概念等を活用して多面的・多角的に考察すること」等、論理的思考力や批判的な思考力などの育成を目指すものであり、後者は「社会的な見方や考え方をを用いて社会に見られる複雑な課題を把握して、身に付けた判断基準を根拠に解決に向けて構想すること」等、公正な判断力や社会参画に向けた創造力などの育成を目指すものであると考えられる。

また、社会科、地理歴史科、公民科で育成する「表現力」は、教科の特質を踏まえるとともに言語活動の充実を視野に入れて重点化すれば、考察したことや構想したことを説明する力、考察したことや構想したことを基に議論する力であると考えられる。前者は「適切な資料・内容や表現方法を選び、社会的事象等についての自分の考えを効果的に説明すること」等、意見を表明する力や説得力などの育成を目指すものであり、後者は「合意形成や社会参画を視野に入れながら、社会的事象等について構想したことを、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論すること」等、協働的に問題解決する力や情報を吟味する力などの育成を目指すものであると考えられる。

これら考察する力、構想する力、説明する力、議論する力は、課題解決の学習過程において相互に関連性を持ち、かつ質的に向上しながら育成されるものと考えられる。

資質・能力の柱の第三は、社会科、地理歴史科、公民科で養われる学びに向かう力・人間性である。それは、「主体的に学習に取り組む態度」と、「多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情など」であると考えられる。「主体的に学習に取り組む態度」のうち、学んだことを社会生活に生かそうとして更に調べたり分かろうとしたりする態度や、社会に見られる課題についてよりよい社会を目指して解決しようとする態度などは、よりよい社会の形成に主体的に参画しようとする態度であると考えられる。

(3) 資質・能力を育む学習過程の在り方

三つの柱に沿った資質・能力を育成するためには、課題解決的な学習の一層の充実が求められる。それらはいずれも知識、概念や技能を習得・活用して思考・判断・表現しながら課題を解決する一連の学習過程において効果的に育成されるものと考えられるからである。社会科においては従前から、小学校で問題解決的な学習の充実、

中学校で適切な課題を設けて行う学習の充実が求められており、課題解決的な学習の充実はそれらの趣旨を踏襲する方向であると考えられる。

学習過程の例としては、大きくは課題把握、課題追究、課題解決の三つが考えられる。また、その三つのそれぞれを構成する学習場面として、動機付けや方向付け（課題把握）、情報収集や考察・構想（課題追究）、まとめや振り返り（課題解決）などが考えられる。なお、これらは一例であり、他にも様々考えられる。また、中学校社会科や高等学校地理歴史科、公民科においては、自ら問いを立てたり、仮説や追究方法を考えたりするなど課題解決的な学習の過程をより発展させた学習過程も考えられる。それは、学習場面を細分化せずに生徒の主体性を更に生かすことを想定したものであり、学習内容や社会に見られる課題等に応じて展開されるものと考えられる。

「論点整理」で示されたアクティブ・ラーニングの三つの視点との関係性を考えると、
（ ）習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程は上記の学習過程全体を通して、（ ）他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程は主として情報収集や考察・構想、あるいはまとめの学習場面において、（ ）子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程は、主として動機付けや方向付け、振り返りなどの学習場面において、実現することなどが考えられる。

（４）「目標に準拠した評価」に向けた評価の観点の在り方

観点別学習状況の評価の観点は、各教科等における目標と表裏一体の関係にあることから、社会科、地理歴史科、公民科においても評価の観点の在り方は、育成すべき資質・能力と一貫性を持ったものに改善することが求められる。三つの柱に沿った資質・能力と観点別学習状況の評価の観点との対応関係で考えると、「知識や技能」に関する評価の観点としては「社会的事象等についての知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」に関する評価の観点としては「社会的事象等についての思考・判断・表現」、「学びに向かう力・人間性」に関する評価の観点としては、社会科、地理歴史科、公民科においては、学習対象である社会的事象等に積極的に関わろうとすることが重要であることから、この資質・能力の趣旨を総合的に評価するため、「主体的に社会的事象等に関わろうとする態度」とすることが適当であると考えられる。

「社会的事象等についての知識・技能」は、学習成果として身に付けている状況を評価する趣旨の観点であり、例えば「社会的事象等についての知識」と「社会的事象等について調べまとめる技能」というように、それぞれの観点の趣旨を明確にして評価することが考えられる。「社会的事象等についての知識」については、前述のように学習指導要領の内容に応じて社会生活に関するもの、我が国や世界の地理に関するもの、我が国や世界の歴史に関するもの、現代社会の政治、経済、国際関係に関する

ものなどについての知識であり、前述したように主として用語・語句などを含めた個別の事実等に関わる知識と、主として社会的事象等の特色や意味、理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関わる知識とに分けて捉えることができると考えられる。それらについて学習過程に応じて「～は～である」と理解し、その知識を身に付けているかどうかを評価することが考えられる。

また、「社会的事象等について調べまとめる技能」については、手段を考えて課題解決に必要な社会的事象等に関する情報を収集する技能、収集した情報を社会的な見方や考え方に沿って読み取る技能、読み取った情報を課題解決に向けてまとめる技能の三つに分けて捉えることができると考えられる。それらを身に付けているかどうかを学習過程に応じて、例えば、必要な情報を選んでいるか、資料の特性に留意しているか、といった規準で評価することなどが考えられる。

「社会的事象等についての思考・判断・表現」は、課題解決に向けて追究している状況の評価する趣旨の観点である。具体的には、社会的な見方や考え方をを用いて社会的事象等の様子や仕組み、課題等を見出し、社会的事象等の意味や意義、特色や相互の関連を考察している状況、社会的な見方や考え方を生かして社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想している状況、考察したことや構想したことを説明している状況、考察したことや構想したことを基に議論している状況などを評価することが考えられる。それらについて学習過程に応じて、多面的・多角的に考察しているかどうか、身に付けた判断基準、複数の立場や意見などを踏まえて構想しているかどうか、適切な資料・内容や表現方法を選び、主旨が明確になるように内容構成を考え、自分の考えを論理的、効果的に説明しているかどうか、合意形成を視野に入れながら、他者の主張を踏まえたり取り入れたりして自分の考えを再構成しながら議論しているかどうか、といった規準で評価することが考えられる。

なお、社会的事象等を取り扱う場合には、児童生徒の考えが深まるよう様々な見解を提示することなどが重要である。特定の事柄を強調しすぎたり、一面的な見解を十分な配慮なく取り上げたりするなどの偏った取扱いにより、児童生徒が多面的・多角的に考察し、事実を客観的に捉え、公正に判断することを妨げることはないように留意したり、客観的かつ公正な資料によって指導するよう留意したりすることが求められる。そのため、諸資料を適切に活用する技能や多様な資料から考察・表現するために適切な題材等を扱った教材を確保することが期待される。

「主体的に社会的事象等に関わろうとする態度」は、学習対象や学習内容に対する主体性を評価する趣旨の観点であり、学習対象としての社会的事象等について主体的に調べたり分かったりしている状況、学習上の課題や社会に見られる課題を意欲的に解決しようとしている状況の評価することが考えられる。前者は、問いや追究の見通しを持っているかどうか、振り返り学んだことの意味に気付いているかどうか、身に付けた見方や考え方を新たな問いに生かしているかどうか、学んだことを社会生活に生かそうとしているかどうか、といった規準で評価することが考えられる。

後者は、粘り強く試行錯誤しながら解決しようとしているか、他者と協働してよりよい結果を得ようとしているか、よりよい社会を目指して解決しようとしているか、といった規準で評価することが考えられる。

3 資質・能力の育成に向けた教育内容の改善・充実

(1) 科目構成の見直し(高等学校地理歴史科、公民科)

冒頭に述べたように、高等学校においては、国家及び社会の形成者として必要な知識や思考力等を基盤として選択・判断等を行い、課題を解決していくために必要な力や、自国の動向とグローバルな動向を横断的・相互的に捉えて現代的な諸課題を歴史的に考察する力、持続可能な社会づくりの観点から地球規模の諸課題や地域課題を解決していく力を、全ての高校生に共通に育てていくことが求められることから、目標や内容を含めた科目構成の見直しを行うことが求められる。

(高等学校地理歴史科において育成すべき資質・能力)

高等学校地理歴史科においては、小中高等学校を通じて育成すべき資質・能力を整理するとともに、現行学習指導要領における教科目標の趣旨を勘案しつつ、育成すべき資質・能力について検討を行った。その結果、地理歴史科で育成すべき資質・能力の三つの柱に共通する要素として、「広い視野に立って、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な、以下の三つの公民としての資質・能力を、社会的事象の地理的・歴史的な見方や考え方を培い、育成すること」があると考えられるに至った。これは、現行学習指導要領地理歴史科の目標にある「国際社会に主体的に生き平和で民主的な国家・社会を形成する日本国民として必要な自覚と資質を養う」ことの趣旨を一層明確にするるとともに、人、商品、資本、情報、技術などが国境を越えて自由に移動したり、企業など国家以外の様々な集合体の役割が増大したりしてグローバル化が一層進むことが予測されるこれからの社会において、教育基本法、学校教育法の規定を踏まえ、国家及び社会の形成者として必要な資質・能力を育むことの大切さへの意識を持つことを期待してこのような表現としたものである。

その上で、育むべき資質・能力の第一としては、日本及び世界の歴史の展開と生活・文化の地域的特色について理解させるとともに、調査や諸資料から、社会的事象に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせることが考えられる。

育むべき資質・能力の第二としては、地理や歴史に関わる諸事象の意味や意義、特色や相互の関連性について、概念等を活用して考察したり、課題の解決に向けて構想したりする力を養うとともに、考察・構想したことを適切な資料・内容や表現方法等を選び効果的に説明したり、議論したりする力を養うことが考えられる。

育むべき資質・能力の第三としては、地理や歴史に関わる事象について主体的に調べたり分かるうとしたりする態度や、学習上の課題、社会に見られる課題を意欲的に追究したり探究したりしようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めるようにすることが考えられる。

(地理歴史科の科目構成)

「論点整理」を踏まえ検討を行った結果、地理歴史科における共通必修科目として、「歴史総合(仮称)」と「地理総合(仮称)」を設置するとともに、地理歴史科の科目構成を見直すことが適当である。具体的には、共通必修科目としての「歴史総合(仮称)」と「地理総合(仮称)」を設置し、生徒の興味・関心や進路の希望に応じて選択履修科目として「日本史に関する探究科目(仮称)」、「世界史に関する探究科目(仮称)」及び「地理に関する探究科目(仮称)」を設置することが考えられる。

今回設置する「歴史総合(仮称)」については、これまで、次のような三つの視点で検討を重ねてきた。

- ・世界と日本の相互作用を捉えて近現代の歴史を理解する科目にしてはどうか。
- ・現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察する科目にしてはどうか。
- ・単元の基軸となる問いを設け資料を活用しながら歴史の学び方を習得する科目としてはどうか、ということである。

そこで、新必修科目「歴史総合(仮称)」では、この科目で育む資質・能力として、中学校社会科の学習で育まれた社会的事象等の歴史的な見方や考え方をを用いて、世界とその中における日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史についての理解とともに、諸資料から歴史に関する情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能を身に付けさせ、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史についての諸事象等の意味や意義、特色や相互の関連について、多面的・多角的に考察したり、歴史に関わる諸事象を把握し、その解決に向けて構想したりする力、考察・構想したことを適切な資料・内容や表現方法を選び効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を育成するとともに、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史について主体的に調べたり分かるうとしたりする態度、持続可能な社会を視野に入れて、世界とその中における日本の在り方について歴史的な観点から意欲的に追究しようとする態度、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚や我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを育成することが考えられる。

そのために、科目を四つの大項目で構成することが考えられる。科目の導入にあた

る「歴史の扉（案）」では、中学校社会科の学習を振り返りながら、例えば、近世の日本・アジアを取り上げ、歴史を学ぶ意義や歴史の学び方を考察させる。これに続く三つの大項目は、近現代の歴史の大きな転換に着目して構成することが考えられる。

「近代化と私たち（案）」では産業社会と国民国家の形成を背景とした人々の生活や国際関係の変化を扱い、「大衆化と私たち（案）」では大衆社会の形成を背景とした人々の生活や社会の在り方の変化を扱い、「グローバル化と私たち（案）」ではグローバル化する国際社会を背景とした人々の生活や社会の在り方や国際関係の変化を扱い、世界とそこにおける日本を広く相互的な視野から捉えて、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を考察させるという構成が考えられる。その際、「自由と制限」「富裕と貧困」「対立と協調」「統合と分化」「開発と保全」などの現代的な諸課題につながる歴史的な状況を取り上げ、近現代の歴史の学習内容の焦点化を図ることが考えられる。

今回設置する「地理総合（仮称）」については、これまで、次のような三つの視点で検討を重ねてきた。

- ・環境条件と人間の営みとの関わりに着目して 現代の地理的な諸課題を考察し、持続可能な社会づくりを構想する科目にしてはどうか。
- ・グローバルな視座から国際理解や国際協力の在り方を、地域的な視座から防災などの諸課題への対応を考察する科目にしてはどうか。
- ・地図や地理情報システム（GIS）などを用いることで、汎用的で実践的な地理的技能を習得する科目としてはどうか、ということである。

そこで、新必修科目「地理総合（仮称）」では、この科目で育む資質・能力として、社会的事象等の地理的な見方や考え方をを用いて、地球規模の自然システムや社会・経済システムの理解とともに、地図や地理情報システムなどの地理的技能を身に付けさせ、地理に関わる諸事象を地域等の枠組みの中で考察したり、そこで生起する課題を解決に向けて構想したりして、適切な資料・内容や表現方法等を選び効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を育成するとともに、持続可能な社会づくりに向けて、地球的、地域的課題を意欲的に追究しようとする態度や、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを育成することが考えられる。

そのために、科目を三つの大項目で構成することが考えられる。第一の「地図と地理情報システムの活用（案）」では、以降の地理学習等の基盤となるよう、地理を学ぶ意義を確認するとともに、現代世界の地理的認識を深め、地図や地理情報システム（GIS）などに関わる汎用的な地理的技能を身に付けさせる。第二の「国際理解と国際協力（案）」では、自然と社会・経済システムの調和を図った、世界の多様性のある生活・文化について理解させるとともに、地球規模の諸課題とその解決に向けた国際協力の在り方について考察させる。第三の「防災と持続可能な社会の構築（案）」

では、日本国内や地域の自然環境と自然災害との関わりや、そこでの防災対策について考察させるとともに、生活圏の課題を、観察や調査・見学等を取り入れた授業を通じて捉え、持続可能な社会づくりのための改善、解決策を探究させるという構成が考えられる。

新選択科目「日本史に関する探究科目（仮称）」では、この科目で育む資質・能力として、社会的事象等の歴史的な見方や考え方をういて、我が国の歴史の展開について歴史を構成する諸要素・諸領域からの総合的な理解とともに、多様な資料から情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能を身に付けさせ、我が国の歴史に関わる諸事象等の意味や意義、特色や相互の関連について、各時代の展開に関わる概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し、その解決に向けて構想したりする力や、考察・構想したことを適切な資料・内容や表現方法を選び効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を育成するとともに、我が国の歴史の展開について、主体的に調べたり分かつたりする態度や、持続可能な社会づくりを視野に入れて、歴史の展開の総合的な理解を踏まえて、地域や日本、世界の在り方を意欲的に追究・探究しようとする態度、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚や我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを育成することが考えられる。

そのために日本史選択科目では、我が国の歴史の展開について、新必修科目「歴史総合（仮称）」で習得した歴史の学び方を活用し、そこで獲得した概念等に加え、更に考察を深めるために必要な歴史的な概念等を習得しそれらを活用し、日本史に関わる豊富な資料にも着目して、歴史を構成する様々な要素から総合的に広く深く探究させることが考えられる。例えば前近代では、歴史を解釈、説明する力を段階的に成長させて、「歴史総合（仮称）」で習得した歴史の学び方や、歴史を考察し表現する力を一層高め、近現代につながる各時代の展開や、我が国の伝統や文化への理解を深めさせることが考えられる。近現代では、「歴史総合（仮称）」で獲得した概念等、前近代の学習で成長させた歴史を解釈、説明する力を活用して、地域の資料など多様な資料を用いて、地域と日本、世界の歴史の相互の関係を捉え、日本の近代社会の変化と多様な展開、現代につながる諸課題を多面的・多角的に考察させることが考えられる。

選択科目「世界史に関する探究科目（仮称）」では、この科目で育む資質・能力については、新必修科目「歴史総合（仮称）」で習得した歴史の学び方を活用し、諸地域世界の歴史の大きな枠組みと展開の理解とともに、諸資料から世界の歴史に関する情報を収集する・読み取る・まとめる技能を身に付けさせ、諸地域世界の歴史に関わる諸事象等の意味や意義、特色や相互の関連について、歴史の大きな枠組みに関する概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し、その解決に向けて構想したりする力、考察・構想したことを適切な資料・内容や表現

方法を選び効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を育成するとともに、諸地域世界の歴史の大きな枠組みと展開について、主体的に調べたり分かってほしいという態度や、持続可能な社会づくりを視野に入れて、歴史の大きな枠組みと展開についての理解を踏まえ、世界や日本の在り方を意欲的に探究しようとする態度、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚や我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを育成することが考えられる。

そのために世界史選択科目では、諸地域世界の歴史の大きな枠組みと展開について、新必修科目「歴史総合（仮称）」で習得した歴史の学び方や獲得した概念等に加え、更に考察を深めるために必要な歴史的な概念等を習得しそれらを活用して、世界の歴史に関わる諸事象の意味や意義等を広く深く考察し探究させる科目として構成することが考えられる。例えば前近代では、近現代につながる地域性豊かな諸地域世界の文化の多様性や複合性を扱い、日本を含む諸地域世界間の関係性を重視し、諸資料を効果的に活用して歴史を考察し表現して、時間軸（タテ）と空間軸（ヨコ）の変化に着目して考察させることが考えられる。近現代では、相互依存性を高める諸地域世界の特質や、地球規模での一体化と多元性を深める現代世界の特質を扱い、諸地域世界の構造的なつながりを重視し、近現代に関わる豊富な資料を効果的に活用して広い視野から歴史を考察し表現し、空間軸（ヨコ）の変化に着目して、現代につながる諸課題を多面的・多角的に考察させることが考えられる。

新選択科目「地理に関する探究科目（仮称）」では、この科目で育む資質・能力として、社会的事象等の地理的な見方や考え方をを用いて、世界の空間的な諸事象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の構造や変容についての理解とともに、地図や地理情報システムなどの地理的技能を実践的に身に付けさせるとともに、地理に関わる諸事象を系統地理的あるいは地誌的に考察したり、地域に見られる課題を把握し、その解決に向けて構想したりして、適切な資料・内容や表現方法等を選び効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を育成するとともに、持続可能な社会づくりに向けて、地球的、地域的課題を意欲的に追究しようとする態度や、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを育成することが考えられる。

そのために、地理選択科目では、系統地理的に事象の規則性や傾向性などを考察させるとともに、それぞれに環境問題、食料問題などの関連諸課題を追究させることが考えられる。また、地域の概念、地域区分の意義を考察し、実際に地域を区分した上で、地誌的に地域の構造や変容などを考察させるとともに、地域ならではの諸課題と地球的課題の関連性を追究させることが考えられる。更に、現代世界における日本の国土の特色について多面的・多角的に考察し、我が国が抱える地理的な諸課題を探究する活動を通して、その解決の方向性や将来の国土の在り方などについて展望させる

という構成が考えられる。

(高等学校公民科において育成すべき資質・能力)

高等学校公民科においては、小中高等学校を通じて育成すべき資質・能力を整理するとともに、現行学習指導要領における教科目標の趣旨を勘案しつつ、「広い視野に立って、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養うために、社会的な見方や考え方を培い、三つの柱に沿って整理した資質・能力を育成する」ことが求められると考えられる。

その上で、育むべき資質・能力の第一としては、国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済等に関する理解、調査や諸資料から社会的事象や人間としての在り方生き方に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けさせることが考えられる。

育むべき資質・能力の第二としては、現代の諸課題について概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、構想したりする力を養うとともに、合意形成や社会参画を視野に入れながら、社会的事象や課題について構想したことを、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論する力を養うことが考えられる。

育むべき資質・能力の第三としては、人間と社会の在り方に関わる課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される人間としての在り方生き方についての自覚、自国を愛しその平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し各国民が協力し合うことの大切さについての自覚を深めるようにすることなどが考えられる。

(公民科の科目構成)

「論点整理」における検討も踏まえ、公民科の科目構成を見直し、共通必修科目としての「公共(仮称)」を設置し、その上に選択履修科目「倫理(仮称)」及び「政治・経済(仮称)」を設置することが適当である。その際、「公共(仮称)」と同様に1科目でもって公民科の教科目標を達成することのできる現行の選択必修科目「現代社会」については、「公共(仮称)」における三つの大項目相互の関係や学習内容において共通する点も多く、その発展と捉えることもできることから科目を設置しないことが考えられる。

新必修科目「公共(仮称)」では、この科目で育む資質・能力として、人間と社会の在り方についての見方や考え方をを用いて、現代社会の諸課題を捉え考察し、国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の手掛かりとなる概念的な枠組みや倫理的、法的、政治的、経済的主体等に関する理解とともに、諸資料から倫理的、法的、政治的、経済的主体等となるために必要な情報を効果的に収集する・読み取る・まと

める技能を身に付けさせ、 選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、現実の社会的事象や現実社会の諸課題の解決に向けて多面的・多角的に考察したり、構想したりする力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら、社会的事象や課題について構想したことを、妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論する力を育成するとともに、 社会の在り方や人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に調べたり分かろうとしたりする態度や、現実社会の諸課題を見出し、その解決に向けて他者と協働して意欲的に考察・構想し、説明・議論することを通して社会に参画し、よりよい社会を形成しようとする態度、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚、自国を愛しその平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを育成することが考えられる。

そのために新必修科目「公共（仮称）」では、第一に現代社会の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を、古今東西の知的蓄積を通して習得し、第二に選択・判断するための手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、現代の社会的事象や現実社会の諸課題について、協働的に考察し、合意形成や社会参画を視野に入れながら解決に向けて構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを指標にして議論する力を養うとともに、第三に持続可能な社会づくりの主体となるために、様々な課題の発見・解決に向けた探究を行い、「グローバル化する国際社会に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者」として必要な資質・能力を養う科目とし、三つの大項目で構成することが考えられる。

その第一の「公共の扉」では、今まで受け継がれてきた蓄積や先人の取組、知恵などを踏まえて、社会に参画し、他者と協働する倫理的主体として個人が判断するための手掛かりとなる、「その行為の結果として、個人の幸福とともに、社会全体の幸福を重視する考え方」と「その行為の動機となる人間的責務としての公正などを重視する考え方」を理解させるとともに、個人と社会との関わりにおいて、公共的な空間における基本的原理について考えさせることを通して、人間としての在り方生き方や公共的な空間の在り方を考える上での基盤となる、人間と社会の在り方についての見方や考え方を育むことが考えられる。

また、この大項目で指導したことが、以後の学習に活用されていくことができるよう十分に留意して指導計画を作成し、それに基づいた学習を展開することが求められる。

なお、この大項目では指導のねらいを明確にした上で、例えば、囚人のジレンマ、共有地の悲劇、最後通牒ゲーム等の思考実験や、環境保護、生命倫理等について概念的に考える学習活動を取り入れたり、民主主義、自由・権利と責任・義務、相互承認など、公共的な空間における基本的原理に関わる事象を取り上げたりすることが考えられる。

第二の「自立した主体として国家・社会に参画し、他者と協働するために」では、小・中学校社会科で習得した知識等を基盤に、人間と社会の在り方についての見方や考え方を働かせながら、公共的な空間を形作る政治、経済、法などのシステムの基本を理解させるとともに、そうしたシステムを通じてどのように社会に参画し他者と協働していくかを考察、追究させることが考えられる。併せて、自立した主体として生きるために必要な知識・技能、思考力・判断力・表現力及び態度を養い、第三の「持続可能な社会づくりの主体となるために」における課題を探究する学習が効果的に行われるよう課題意識の醸成に努めるようにすることが考えられる。

また、この大項目では指導のねらいを明確にした上で、例えば、政治的主体としては、政治参加、世論の形成、地方自治、国家主権（領土を含む）、国際貢献など、経済的主体としては、職業選択、金融の働き、経済のグローバル化と相互依存関係の深まりなど、法的主体としては、司法参加など、様々な情報を発信・受信する知的主体としては、情報モラルなどが、また複数の主体が複合的に関連し合う題材としては、財政と税、社会保障、市場経済の機能と限界、雇用、労働問題（労働関係法制を含む）、契約、消費者の権利や責任、多様な契約、メディア、情報リテラシー、男女共同参画などの題材を取り扱うことが考えられる。その際、選挙管理委員会、消費者センター、弁護士などの関係する専門家・機関と連携・協働したり、討論、模擬裁判などの学習活動を効果的に取り入れたりすることが考えられる。

その際、個別的・網羅的に題材を取り扱うことなく、政治的主体、経済的主体、法的主体、様々な情報を発信・受信する知的主体の相互の有機的な関連を図り、これらのうち二つ、あるいは三つ体が複合的に関連し合う題材については複数の観点から取り扱うことが考えられる。また、これら様々な主体となる個人を支える家族・家庭や地域等にあるコミュニティを基盤に、自立した主体として社会に参画し、他者と協働することの意義について考えさせることが考えられる。

第三の「持続可能な社会づくりの主体となるために」では、前二つの大項目における学習を踏まえて、持続可能な地域、国家、国際社会づくりに向けた役割を担う主体となる意欲を育むことなどをねらいとして現実社会の諸課題、例えば、公共的な場づくりや安全を目指した地域の活性化、受益と負担の均衡や世代間の調和がとれた社会保障、文化と宗教の多様性、国際平和、国際経済格差の是正と国際協力などを探究する学習を行い、その解決に向けて、各人がどのように主体的に関わっていくかを考えるという構成が考えられる。

なお、「公共（仮称）」においては、教科目標の実現を見通した上で、キャリア教育の観点から、インターンシップの準備と振り返りを行うことなどを通して、経済、法、情報発信などに対して主体的に参画する力を育む中核的機能を担うことが求められている。

新選択科目「倫理（仮称）」では、この科目で育む資質・能力としての在り方生き方についての見方や考え方をを用いて、古今東西の知的蓄積を通して、現代の諸課題を捉え、より深く思索するために必要な概念や理論の理解とともに、諸資料から、人間としての在り方生き方に関わる情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能を身に付けさせ、他者と共によりよく生きる自己の生き方についてより深く思索する力や、現代の倫理的諸課題を解決するために概念や理論を活用し、論理的に思考し、思索を深め、説明したり対話したりする力を育成するとともに、人間としての在り方生き方に関わる事象や課題について主体的に調べたり分かつたりする態度や、現代の倫理的諸課題を見出し、その解決に向けて他者と協働して意欲的に考察・構想し、説明・対話することを通して、他者や社会と積極的に関わりながらよりよく生きる自己を形成しようとする態度、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についてのより深い自覚などを育成することが考えられる。

そのために、新選択科目「倫理（仮称）」では、共通必修科目「公共（仮称）」で習得した個人が判断するための手掛かりとなる考え方を基盤とし、古今東西の幅広い知的蓄積を通してより深く思索するための概念や理論を理解し、それらを活用して現代の倫理的課題を探究するとともに、人間としての在り方生き方についてより深く自覚し、人格の完成に向けて自己の生き方の確立を図り、他者と共に生きる主体を育む「倫理」に発展させる。そのために、先哲の思想を個別に取り上げ学ぶのではなく、倫理的諸価値について時代を超えた多数の先哲による考え方を手掛かりにして「考える倫理」に転換することが考えられる。

新選択科目「政治・経済（仮称）」では、この科目で育む資質・能力としての社会の在り方についての見方や考え方をを用いて、正解が一つに定まらない、現実社会の複雑な諸課題の解決に向けて探究するために必要な概念や理論の理解とともに、政治や経済などに関わる諸資料から、現実社会の諸課題の解決に必要な情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能を身に付けさせ、国家及び社会の形成者として必要な選択・判断の基準となる概念等を活用して、社会に見られる複雑な課題を把握し、説明するとともに、身に付けた判断基準を根拠に解決の在り方を構想する力や、構想したことの妥当性や効果、実現可能性などを踏まえて議論し、合意形成や社会形成に向かう力を育成することや、社会の在り方に関わる事象や課題について主体的に調べたり分かつたりする態度や、現実社会の諸課題を見出し、その解決に向けて他者と協働して意欲的に考察・構想し、説明・議論することを通して社会に参画し、よりよい社会を形成していく態度、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、自国を愛しその平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し各国民が協力し合うことの大切さについてのより深い自覚などを育成することが考えられる。

そのために、新選択科目「政治・経済（仮称）」では、小・中学校社会科で身に付

けた現代社会の見方や考え方や共通必修科目「公共（仮称）」で身に付けた人間と社会の在り方についての見方や考え方を基盤に、「公共（仮称）」で習得した選択・判断するための手掛かりとなる概念等を活用し、現代日本の政治や経済の諸課題や国際社会における日本の役割など、正解が一つに定まらない現実社会の諸課題を協働して探究し、国家及び社会の形成に、より積極的な役割を果たす主体を育む「政治・経済」に発展させることが考えられる。

なお、これらの高等学校の地理歴史科や公民科の各科目において、特に、人間としての在り方生き方や、社会の在り方に関わって取り上げる事象については、多様な見方や考え方ができることから、生徒の考えが深まるよう様々な見解を提示することなどが求められる。その際、特定の事柄を強調しすぎたり、一面的な見解を十分な配慮なく取り上げたりするなど、特定の見方や考え方に偏った取扱いにより、生徒が多面的・多角的に考察し、事実を客観的に捉え、公正に判断することを妨げるものがないよう留意するとともに、客観的かつ公正な資料に基づいて指導するよう留意することが必要である。

（２）資質・能力の整理と学習過程の在り方を踏まえた教育内容の構造化

社会科、地理歴史科、公民科の内容については、三つの柱に沿った資質・能力や学習過程の在り方を踏まえて、それらの趣旨を実現すべく、次の二点から改めて構造化することが求められる。

視点の第一は、社会科における内容の枠組みや対象に基づいた構造化である。小学校社会科では、中学校社会科の分野別構造とは異なり、社会的事象を人間（人々）の働きや生活を軸にして時間的（歴史的）にも空間的（地理的）にも、あるいは相互関係的にも捉えるべく総合化された内容として構成されている。そのため教師は、指導している内容が社会科全体においてどのような位置付けにあるか、中学校社会科とどのようにつながるかといったことを意識しづらいという点が課題として指摘されている。小学校社会科の特質を生かしつつも中学校社会科の分野別の内容との接続が見えるようにするためには、地理的環境と人々の生活、歴史と人々の生活、現代社会の仕組みや働きと人々の生活という三つの枠組みに位置付ける整理が考えられる。また、は空間的な広がり念頭に地域、日本、世界と、は社会的事象について経済・産業、政治及び国際関係と、対象を区分する整理も考えられる。

視点の第二は、社会的な見方や考え方に基づいた構造化である。社会的な見方や考え方は追究の視点や方法であり、社会的な見方や考え方をういた学習は、時間、空間などの追究の視点に着目して事実等に関する知識を習得し、それらを比較、関連付けなどして考察・構想し、特色や意味、理論などの概念等に関する知識を身に付ける学習であるということが出来る。このことを踏まえて、学習指導要領の内容について、例えば追究の視点や方法と具体的な事実等に関する概念等に関する知識を構造化す

ることが考えられる。

(3) 現代的な諸課題を踏まえた教育内容の見直し

社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想する力を養うためには、児童生徒が生きる現在及び将来の社会の変化を見据え、その課題について指導することが必要である。将来の予測が困難な時代であるが、グローバル化、持続可能な社会の構築、情報化等による産業構造の変化など将来につながる現代的な諸課題を踏まえた教育内容の見直しを図ることが必要である。

(グローバル化への対応)

グローバル化する国際社会を主体的に生きるための資質・能力の育成の視点から、日本と世界の生活・文化の多様性の理解や、地球規模の諸課題や地域的な諸課題の解決について、例えば、日本固有の領土について地理的な側面や国際的な関係に着目して考えるなど、時間的・空間的な多様な視点から考察する力を身に付けていくことが求められる。

小学校社会科においては、市役所など行政機関が行う地域社会の国際化への対応や、世界の歴史に関する地図などを使った我が国の歴史的事象の理解など、世界の国々との関わりへの関心を高めるよう教育内容を見直すことなどが考えられる。

中学校社会科歴史的分野では、高等学校地理歴史科に新必修科目「歴史総合（仮称）」が設置されることを受け、我が国の歴史事象に直接関わる世界の歴史に加え、間接的な影響を与えた世界の歴史の学習を充実させ、より広い視野を持って、我が国の歴史の理解を促すことが考えられる。そのために、例えば、世界で行われていた異なる文化との接触や交流が日本に影響を及ぼしていることに着目して、ムスリム商人の活動をはじめとした交流などを取り上げることなどが考えられる。

(持続可能な社会の形成への対応)

グローバル化への対応の観点も含め、持続可能な社会づくりの視点が一層大切になると考えられる。例えば、中学校社会科地理的分野においては、引き続き「世界の諸地域」の学習においてその地理的な認識を深めることを重視し、その際、国境を越えた地球規模の課題等を主題として取り上げ、持続可能な社会づくりの視点を生かした学習を充実させることなどが考えられる。

(情報化の進展等による産業構造の変化への対応)

前回の学習指導要領の改訂においては、知識基盤社会の時代に対応した改訂が行われた。前回の改訂以降、この知識基盤社会の流れはますます加速しており、社会が変化し、それに伴い産業構造の変化が生じている。例えば情報化の進展は、地理的・空間的な制約を軽減させている。また、ネットワークの発達世界的な情報量の増大を

起こしており、そこに、IoT、ビッグデータ、人工知能などと結び付き、付加価値を生み出す新しい産業や社会が創出されつつある。

このため、情報化など知識基盤社会化による産業や社会の構造的な変化に関する取扱いを充実させることが考えられる。

(防災・安全教育への対応)

未曾有の大災害となった東日本大震災を含め多くの自然災害が発生する我が国では、災害に備え、災害を乗り越えるために、防災教育を含む安全教育の充実が求められている。例えば、小学校社会科においては、災害時における地方公共団体の働き、地域の人々の工夫や努力、地理的・歴史的観点を踏まえた災害に関する理解、防災情報に基づく適切な行動の在り方等に関する指導の充実が考えられる。また、中学校社会科では、地理的分野において地域社会における安全、防災上の災害要因や事故防止の理解、空間情報に基づく危険の予測に関する指導の充実が、公民的分野において安全・安心な社会づくりや、防災情報の発信・活用に関する指導の充実が、また高等学校公民科においては、防災関係制度も含め安心・安全な地域づくりへの参画など現代的課題等の理解に関する指導の充実が考えられる。これらの教育内容は、我が国の国土において発生する自然災害を対象とすることから、引き続き、日本の地形や気候の特色、海に囲まれ多くの島々から構成される我が国の国土の様子を理解する学習の充実も考えられる。

(選挙権年齢の18歳への引き下げに伴う政治参加への対応)

選挙権年齢が18歳に引き下げられることも踏まえ、高等学校公民科の学びにつながるよう、小学校や中学校における政治や社会に積極的に参画する資質・能力の一層の育成が求められている。例えば、小学校社会科において、地方公共団体の政治の働き、選挙の意味などについての充実を図るよう教育内容を見直すことなどが考えられる。中学校社会科では、歴史的分野の学習においては、例えば、民主政治の来歴や人権思想の広がりなどに着目して、古代ギリシャ・ローマの社会やアメリカ合衆国建国における自由や平等への動きなどを取り上げ参政権の扱いを充実させること、公民的分野の学習において政治参加の扱いを充実させることなどが考えられる。

更に、18歳での選挙権の行使に必要な資質・能力は、税や財政、社会保障、金融や労働といった経済的な側面を持つ課題に対する理解、そのよりよい姿や対応を求める思考力・判断力・表現力等やそれらの課題の解決に積極的に関わろうとする態度等を育むことが必要であり、高等学校における「公共(仮称)」につながるよう、関係機関等と連携するなどして教育活動の一層の充実を図ることが考えられる。

4 学習・指導の改善・充実や教材の充実

(1) 特別支援教育の充実、個に応じた学習の充実

児童生徒の資質・能力の育成を目指し、教科等の目標を達成するために、十分な学びが実現できるよう、学習課程で考えられる「困難さの状態」に対する「配慮の意図」と「手立て」を示していくことが大切である。

例えば、地図等の資料から必要な情報を見付け出したり、読み取ったりすることが困難な場合には、読み取りやすくするために、地図等の情報を拡大したり、見る範囲を限定したり、掲載されている情報を精選して、視点を明確にするなどの配慮が考えられる。

また、社会的事象等に興味・関心が持てない場合には、その社会的事象等の意味を理解しやすくするため、社会の動きと身近な生活がつながっていることを実感できるよう、特別活動などとの関連付けなどを通じて、実際的な体験を取り入れ、学習の順序を分かりやすく説明し、安心して学習できるよう配慮が考えられる。

学習過程における動機付けの場面において学習問題に気付くことが難しい場合には、社会的事象等を読み取りやすくするために、写真などの資料や発問を工夫すること、また、方向付けの場面において、予想を立てることが困難な場合には、見通しが持てるよう事実を短冊に示し、学習順序を考えられるようにすること、そして、情報収集や考察、まとめの場面において、どの観点で考えるのが難しい場合には、ヒントが記入されているワークシートを作成することなどの配慮が考えられる。

(2) 「深い学び」、「対話的な学び」、「主体的な学び」に向けた学習・指導の改善・充実

アクティブ・ラーニングでは、「深い学びの過程」、「対話的な学びの過程」、「主体的な学びの過程」の実現が大切であり、「～法」、「～型」といった特定の学習活動や学習スタイルの固定化や普及を求めているものではなく、指導方法の不断の見直し、改善を求めていることを踏まえることが大切である。

深い学びの過程の実現のためには、社会的な見方や考え方をを用いた考察、構想や、説明、議論等の学習活動が組み込まれた課題解決的な学習の充実が不可欠である。具体的には、教科・科目及び分野の特質に根ざした追究の視点と、それを生かした学習課題（問い）の設定、諸資料等を基にした多面的・多角的な考察、社会に見られる課題の解決に向けた広い視野からの構想（選択・判断）、論理的な説明、合意形成や社会参画を視野に入れながらの議論などが一連の学習過程でつながり、主として用語・語句などを含めた個別の事実等に関する知識のみならず、主として社会的事象の特色や意味、理論などを含めた社会の中で汎用的に使うことのできる概念等に関わる知識を獲得するように学習を設計することが考えられる。

対話的な学びの過程の実現については、特に小学校社会科においては「学び合い」、「関わり合い」等の言葉で実践的に研究され、学習過程を通じた様々な学習場面で充実が図られてきており、そのよさを踏襲していくことが求められる。また、実社会で働く人々が連携・協働して社会に見られる課題を解決している姿を調べる、実社会の人々の話を聞いたり意見交換をしたりして共に課題やその解決について考えるといった活動も一定の広がりを見せており、中学校社会科、高等学校地理歴史科、公民科においてもその特質に応じてそれぞれ今後の一層の充実を期待するところである。その一方で、話し合いの指導が十分に行われずグループによる活動が優先し内容が深まらないといった課題が指摘される所であり、深い学びとの関わりに留意し、その改善を図ることが考えられる。

主体的な学びの過程の実現については、児童生徒が学習課題を把握しその解決への見通しを持つことが求められる。そのためには、動機付けとして学習対象に対する関心や課題意識を持つようにすることが、方向付けとして仮説や学習計画を立てたり調査方法や追究方法の吟味をしたりすることがそれぞれ考えられる。また、学習したことを振り返って、自分の学びの意味に気付いたり新たな課題（問い）を持ったり、学んだことを社会生活に生かそうとしたりすることも主体的な学びにつながると考えられる。そのためには、単元等を通じた学習過程の中で、学習内容・活動に応じた振り返りの場面を設定し、児童生徒の表現を促すようにすることなどが考えられる。

また、主体的な学びや対話的な学びの過程で、ICTを活用することも効果的であると考えられる。例えば、児童生徒の興味・関心に基づきインターネット等を用いて情報を収集する活動や、調べたり考えたりしたことを、大型ディスプレイなどを用いて発表したり、互いの情報を交流したりする活動等が考えられる。

(3) 教材の在り方

3. で述べた資質・能力の育成に向けた教育内容の改善・充実のためには、教材の在り方を見直すことが必要である。

小学校社会科においては、資質・能力を段階的に育成していく観点から、これまで第4学年から配布されていた「教科用図書 地図」を第3学年から配布するようにし、社会的事象等の見方や考え方の育成やグローバル化への対応を図っていくことなどが考えられる。

また、高等学校地理歴史科の歴史系科目では、教材で扱われる用語が膨大になっていることが指摘されていることから、歴史用語について、研究者と教員との対話を通じ、社会的事象等の歴史的な見方や考え方を踏まえて、概念等に関する知識を明確化するなどして構造化して精選することが考えられる。なお、新必修科目では諸資料を適切に活用する技能の育成、選択科目で技能を一層高め多様な資料から考察・表現

する学習などが求められていることから、歴史を多面的・多角的に考察するための適切な題材を扱った副教材等の作成が考えられる。

地理系科目においては、地理情報システムの指導に関わり、コンピュータ等の機器やそれをを用いる環境、教材ソフト等の導入の遅れが、教員の経験不足とともに、実践上の大きな障壁となりうると考えられる。そこで、教育現場におけるGIS活用を普及するための環境整備、広報等が必要であり、活用可能なデータ情報の一元的整理・活用などが求められる。

5 必要な条件整備等について

社会科、地理歴史科、公民科において、2. で述べた資質・能力の育成を図るためには、外部人材や関係諸機関、博物館や資料館、図書館などとの連携、ICTの活用、教員研修などの条件整備が考えられる。

教科の内容に関係する専門家や関係諸機関等との連携・協働も、社会との関わりを意識した課題解決的な学習活動を充実させるために重要である。例えば小学校社会科においては、地域の人々の安全や健康な生活、良好な生活環境を守るための諸活動に関わる人々、伝統と文化や自然などの地域の資源を保護・活用している人々、産業に従事する人々、政治の働きに関わる関係諸機関など、実社会で働く人々と連携した学習が大切である。中学校社会科、高等学校地理歴史科、公民科においても同様であり、教科・科目及び分野の特質や学習内容等に応じた専門家や関係諸機関と、連携・協働することが考えられる。また、博物館や資料館、図書館などの公共施設を活用することも引き続き大切である。

また、教員を対象にした研修の充実も求められる。「論点整理」で示されたアクティブ・ラーニングについては、特定の学習活動や学習スタイルの固定化や普及を求めているのではなく、指導方法の不断の見直し、改善を求めていることから、小中高等学校の各段階において研修を深めていく必要がある。

特に、新たに科目の構成が見直される高等学校の地理歴史科、公民科においては、教育委員会、教育センター等のもとより、各学校においても、社会科、地理歴史科、公民科を通して育成すべき資質・能力を踏まえて養われる社会的な見方や考え方の捉え方についての周知、地理歴史科、公民科の共通必修科目及び選択科目で育成すべき資質・能力及びそれぞれの教科・科目の目標や内容の周知とともに、それを実現するための授業設計の在り方等についての研修を深めることが考えられる。

【高等学校】

地理歴史科

広い視野に立って、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養うために、社会的な見方や考え方を培い、以下の三つの資質・能力を育成する。

日本及び世界の歴史の展開と生活・文化の地域的特色に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめめる技能を身に付けるようにする。

地理や歴史に関わる諸事象について、概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、課題の解決に向けて構想したりする力、考察・構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりするようにする。

地理や歴史に関わる事象について課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めるようにする。

公民科

広い視野に立って、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を養うために、社会的な見方や考え方を培い、以下の三つの資質・能力を育成する。

選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済等に関わる諸課題に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめめる技能を身に付けるようにする。

現代の諸課題について、概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて構想したりする力、合意形成を視野に入れながら構想したことを議論する力を養うようにする。

人間と社会の在り方に関わる課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される人間としての在り方生き方についての自覚、自国を愛しその平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し各国民が協力し合うことの大切さについての自覚を深めるようにする。

【中学校】社会科

広い視野に立って、グローバル化する国際社会に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者を目指す公民的な資質・能力を養うために、社会的な見方や考え方を培い、以下の三つの資質・能力を育成する。

我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめめる技能を身に付けるようにする。

社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力、考察・構想したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養うようにする。

社会的事象について、課題を意欲的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚を深めるようにする。

主体的に社会の形成に参画しようとして、資料から読み取った情報を基にして社会的事象について考察し表現したりするなどの課題解決的な学習の充実を図る。

地理的分野では、地理的技能的育成を一層重視するとともに、持続可能な社会づくりの観点から様々な課題を考察させ、歴史的分野では、グローバル化に対応する観点から世界の歴史の扱いを充実させ、公民的分野については、社会参画への手掛かりを得させるために身に付けた概念を現実の社会的事象と関連付けて理解させる指導の充実を図る。

【小学校】社会科(第3～6学年)

グローバル化する国際社会に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者を目指す公民的な資質・能力を養うために、社会的事象の見方や考え方を培い、以下の三つの資質・能力を育成する。

地域や我が国の地理的環境、社会の仕組みや働き、地域の歴史や伝統と文化、それらと人々の生活との関連について理解するとともに、調査や諸資料から情報を適切に調べまとめめる技能を身に付けるようにする。

社会的事象の特色や意味などについて多角的に考える力、社会への関わり方を選択・判断したことを表現する力を養うようにする。

社会的事象について、課題を意欲的に解決しようとする態度を養うとともに、多角的な考察や理解を通して涵養される地域社会に対する誇りと愛情、我が国の国土や歴史に対する愛情、地域社会の一員としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さの自覚を養うようにする。

社会的事象から学習問題を見出し、問題解決の見通しを持って他者と協働的に追究し、追究結果を振り返るなど、問題解決的な学習の充実を図る。

世界の国々との関わりや我が国の政治の動きへの関心を高める学習、社会に見られる課題を把握して、社会の発展を考える学習の充実を図る。災害における地方公共団体の働き、地域の人々の工夫や努力、地理的・歴史的観点を踏まえた災害に関する理解、防災情報に基づいた適切な行動の在り方等に関する指導の充実を図る。

【小学校】生活科(第1,2学年)

自分と身近な人々及び地域の様々な場所、公共物などとの関わりに関心を持ち、地域のよさに気付き、愛着を持つことができるとともに、集団や社会の一員として自分の役割や行動の仕方について考え、安全で適切な行動ができるようになる。

身近な人々、社会及び自然との関わりを深めることを通して、自分のよさや可能性に気付き、意欲と自信を持って生活することができるようにする。

身近な人々、社会及び自然に関する活動の楽しさを味わうとともに、それらを通して気付いたことや楽しかったことなどについて、言葉、絵、動作、劇化などの方法により表現し、考えることができるようにする。

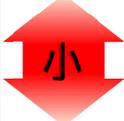
幼児教育

よいことや悪いことが分かり、相手の立場に立って行動するようになり、自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、決まりの大切さが分かり守るようになる。

情報を伝え合ったり、情報に基づき思い合わせたりするようになること、公共の施設を大切にしたり、国旗や国際理解への意識等が芽生えるようになる。

身近な事象に興味や好奇心や探究心を持って思いを巡らしながら積極的に関わり、物の性質や仕組み等に気付いたり、予想したり、工夫したりなどして多様な関わりを楽しむようになる。

社会的な見方や考え方をを用いて，社会的事象等の意味や意義，特色や相互の関連を考察する力

<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象等の意味や意義，特色や相互の関連について，概念等を活用して多面的・多角的に考察できる 			
<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象等の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察できる 			
<ul style="list-style-type: none"> 社会的事象等の意味，特色や相互の関連を多角的に考察できる 			

社会的な見方や考え方をを用いて，社会に見られる課題を把握し，その解決に向けて構想する力

<ul style="list-style-type: none"> 社会に見られる複雑な課題を把握して，身に付けた判断基準を根拠に解決に向けて構想できる 			
<ul style="list-style-type: none"> 社会に見られる課題を把握して，解決に向けて複数の立場や意見を踏まえて選択・判断できる 			
<ul style="list-style-type: none"> 社会に見られる課題を把握して，解決に向けて社会への関わり方を選択・判断できる 			

考察したこと，構想したことを説明する力

<ul style="list-style-type: none"> 適切な資料・内容や表現方法を選び，社会的事象等についての自分の考えを効果的に説明できる 			
<ul style="list-style-type: none"> 主旨が明確になるように内容構成を考え，社会的事象等についての自分の考えを論理的に説明できる 			
<ul style="list-style-type: none"> 根拠や理由を明確にして，社会的事象等についての自分の考えを論理的に説明できる 			

考察したこと，構想したことを基に議論する力

<ul style="list-style-type: none"> 合意形成を視野に入れながら，社会的事象等について構想したことを，妥当性や効果，実現可能性などを指標にして議論できる 			
<ul style="list-style-type: none"> 他者の主張を踏まえたり取り入れたりして，社会的事象等についての自分の考えを再構成しながら議論できる 			
<ul style="list-style-type: none"> 他者の主張につなげたり，立場や根拠を明確にしたりして，社会的事象等についての自分の考えを主張できる 			

*参考 学習の見通しを持ち追究の結果を評価する力

<ul style="list-style-type: none"> 追究の過程や結果を評価し，不十分な点を修正・改善することができる 			
<ul style="list-style-type: none"> 追究の結果を振り返り，学んだことの成果等を自覚できる 			
<ul style="list-style-type: none"> 学習問題（課題）を把握し，追究の見通しを持つことができる 			

社会，地理歴史，公民で育成すべき資質・能力の整理（たたき台）

平成28年5月13日
教育課程部会社会・地理歴史・公民
ワーキンググループ 資料1.6

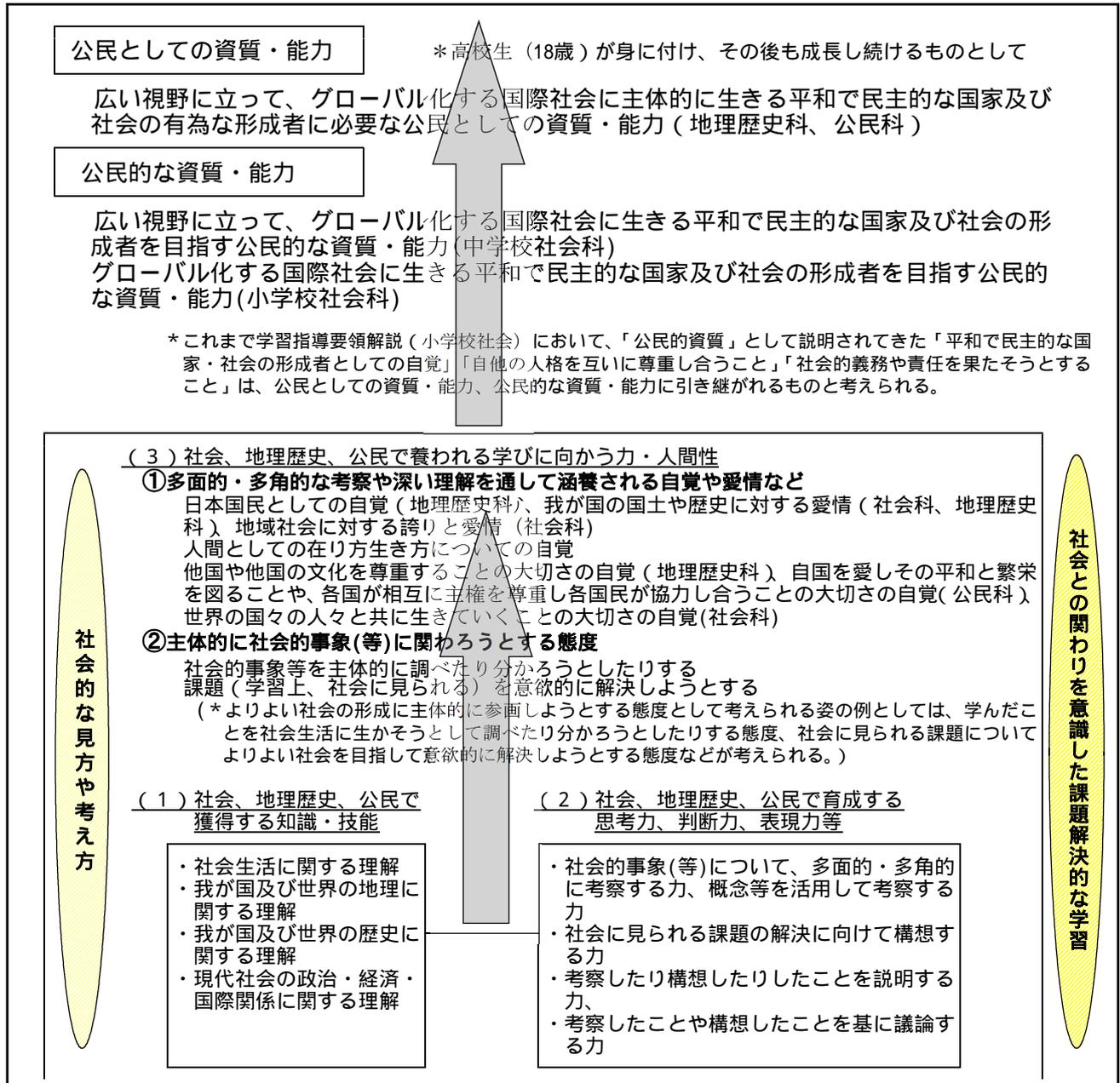
	知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)	思考力・判断力・表現力等 (知っていること、できることをどう使うか)	学びに向かう力・人間性 (どのように社会，世界と関わりよりよい人生を送るか)
小学校社会	<ul style="list-style-type: none"> ・社会生活に関する理解 (地域や我が国の国土の地理的環境，現代社会の仕事や働き，地域や我が国の歴史，それらと人々の生活との関連) ・社会的現象について調べまとめる技能 (社会的現象に関する情報を適切に集める，読み取る，まとめる技能) 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象の特色や相互の関連，意味を多角的に考える力，社会に見られる課題を把握し，社会への関わり方を選択・判断する力 ・思考・判断したことを説明する力 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象について主体的に調べたり分かろうとしたりする態度 (環境保全，自然災害防止，産業の発展，情報化の進展，先人の業績や文化遺産，我が国の政治の動き，世界の国々との関わり) ・学習問題や社会に見られる課題を意欲的に解決しようとする態度 ・多角的な考察や理解を通して涵養される自覚や愛情など (地域社会の一員としての自覚，地域社会に対する誇りと愛情，我が国の国土に対する愛情，我が国の歴史や伝統を大切にし，国を愛する心情，世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚)
中学校社会	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の国土と歴史や現代社会の政治，経済，国際関係に関する理解 ・社会的事象について調べまとめる技能 (調査や諸資料から，社会的事象に関する様々な情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能) 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，社会に見られる課題を把握し，解決に向けて複数の立場や意見を踏まえて選択・判断したりする力 ・思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象について主体的に調べたり分かろうとしたりする態度 課題(学習上の課題，社会に見られる課題)を意欲的に解決しようとする態度 ・多面的，多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情など (我が国の国土や歴史に対する愛情，他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚)
地理的分野	<ul style="list-style-type: none"> ・我が国の国土とともに世界の諸地域における地理に関する理解 (日本や世界の地域構成，日本を含む世界の環境と生活の多様性，州単位の世界地誌，地方単位の日本地誌，身近な地域の調査) ・地図や景観写真などの諸資料から，地理に関する情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・地理に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，地域に見られる課題を把握し，複数の立場や意見を踏まえて選択・判断したりする力 ・趣旨が明確になるように内容構成を考え，自分の考えを論理的に説明したり，それらを基に議論したりする力 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本や世界の諸地域，自分たちが生活している身近な地域に関する社会的事象について主体的に調べたり分かろうとしたりする態度 ・地域の地理的な諸課題を意欲的に解決しようとする態度 ・多面的，多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情など (身近な地域や我が国の国土に対する愛情，世界各地の異なる多様な生活文化を尊重しようとする自覚)
歴史的分野	<ul style="list-style-type: none"> ・各時代の特色を踏まえた我が国の歴史(直接的な関わりや間接的な影響を及ぼす世界の歴史を含む)に関する理解 ・(歴史上の人物との文化遺産，伝統と文化の特色，歴史に見られる国際関係や文化交流のあらまし) ・年表などの諸資料から，歴史に関する情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史に関わる事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，歴史に見られる課題を把握し，複数の立場や意見を踏まえて選択・判断したりする力 ・趣旨が明確になるように内容構成を考え，自分の考えを論理的に説明したり，それらを基に議論したりする力 	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史上の諸事象や身近な地域の歴史，他民族の文化や生活に関する社会的事象について主体的に調べたり分かろうとしたりする態度 ・歴史上の諸事象から見出した課題を意欲的に解決しようとする態度 ・多面的，多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情など (歴史上の人物と文化遺産を尊重することの大切さについての自覚，我が国の歴史に対する愛情や国民としての自覚，国際協調の精神)
公民的分野	<ul style="list-style-type: none"> ・現代社会を捉える概念的枠組みの理解 ・現代社会の政治，経済，国際関係に関する理解 (現代社会と文化，現代社会を捉える見方や考え方，市場の働きと経済，国民の生活と政府の役割，人間の尊重と日本国憲法の基本的原則，世界平和と人類の福祉の増大) ・統計や新聞などの諸資料から，現代の社会的事象に関する情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を現代の社会生活と関連付けて多面的・多角的に考察したり，現代の諸課題について公正に判断したりする力 ・他者の主張を踏まえたり取り入れたりして思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力 	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の社会的事象について主体的に調べたり分かろうとしたりする態度 (社会生活における物事の決定の仕方，現実の政治，個人，企業及び国内地方公共団体の経済活動，現実の国際関係) ・現代社会に見られる課題の解決に向けて意欲的に考察・構想し，説明・議論しようとする態度 (他者と協働して考え，社会に参画しようとする) ・多面的，多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情など (自国を愛しその平和と繁栄を図ることや，各国が相互に主権を尊重し各国民が協力し合うことの大切さについての自覚)

<p>科目名は全て仮称</p>			
<p>高等学校 地理歴史科</p>	<p>知識や技能 (何を知っているか、何ができるか)</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本及び世界の歴史の展開と生活・文化の地域的特色に関する理解 社会的現象等について調べまとめる技能 	<p>思考力・判断力・表現力等 (知っていること、できることをどう使うか)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地理や歴史に関わる諸現象等の意味や意義、特色や相互の関連について、概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、課題を把握し、その解決に向けて構想したりする力 考察・構想したことを適切な資料・内容や表現方法を選び効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力 	<p>学びに向かう力・人間性 (どのように社会、世界と関わりよりよい人生を送るか)</p> <ul style="list-style-type: none"> 地理や歴史に関わる諸現象等について主体的に調べたり分かろうとしたりする態度 課題(学習上の課題、社会に見られる課題)を意欲的に追究したり探究したりしようとする態度 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚など
<p>地理総合</p>	<ul style="list-style-type: none"> 地球規模の自然システムや社会・経済システムに関する理解 調査や地図や統計などの諸資料から、地理に関する情報を、地理情報システムなどをを用いて効果的に収集する・読み取る・まとめる技能 	<ul style="list-style-type: none"> 地理に関わる諸現象等の意味や意義、特色や相互の関連について、地域という枠組みの中で概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、地域に見られる課題を把握し、その解決に向けて構想したりする力 考察・構想したことを適切な資料・内容や表現方法を選び効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力 	<ul style="list-style-type: none"> 地球規模の自然システムや社会・経済システムについて主体的に調べたり分かろうとしたりする態度 持続可能な社会づくりに向けて、地球的、地域的課題を意欲的に追究しようとする態度 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚など
<p>地理に関わる 探究科目</p>	<ul style="list-style-type: none"> 世界の空間的な諸現象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の構造や変容に関する理解 調査や地図や統計などの諸資料から、地理に関する情報を、地理情報システムなどをを用いて効果的に収集する・読み取る・まとめる技能 	<ul style="list-style-type: none"> 地理に関わる諸現象等の意味や意義、特色や相互の関連について、系統地理的あるいは地誌的に概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、地域に見られる課題を把握し、その解決に向けて構想したりする力 考察・構想したことを適切な資料・内容や表現方法を選び効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力 	<ul style="list-style-type: none"> 世界の空間的な諸現象の規則性、傾向性や、世界の諸地域の構造や変容について主体的に調べたり分かろうとしたりする態度 持続可能な社会づくりに向けて、世界や国土の在り方を意欲的に探究しようとする態度 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚など
<p>歴史総合</p>	<ul style="list-style-type: none"> 世界とそこの中における日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史についての理解 諸資料から歴史に関する情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能 	<ul style="list-style-type: none"> 現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史についての諸現象等の意味や意義、特色や相互の関連について、概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に関わる諸課題を把握し、その解決に向けて構想したりする力 考察・構想したことを適切な資料・内容や表現方法を選び効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力 	<ul style="list-style-type: none"> 現代的な諸課題の歴史的背景について、主体的に調べたり分かろうとしたりする態度 持続可能な社会づくりを視野に入れて、世界とそこの中における日本の在り方について歴史的な観点から意欲的に探究しようとする態度 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚など
<p>日本史に関わる 探究科目</p>	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の歴史の展開について、歴史を構成する諸要素・諸領域からの総合的な理解 多様な資料から我が国の歴史に関する情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能 	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の歴史に関わる諸現象等の意味や意義、特色や相互の関連について、各時代の展開に関わる概念等を活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し、その解決に向けて構想したりする力 考察・構想したことを適切な資料・内容や表現方法を選び効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力 	<ul style="list-style-type: none"> 我が国の歴史の展開について、主体的に調べたり分かろうとしたりする態度 持続可能な社会づくりを視野に入れて、歴史の展開について、総合的な理解を踏まえ、地域や日本、世界の在り方を意欲的に探究しようとする態度 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚など
<p>世界史に関わる 探究科目</p>	<ul style="list-style-type: none"> 諸地域世界の歴史の大きな枠組みと展開の理解 諸資料から世界の歴史に関する情報を効果的に収集する・読み取る・まとめる技能 	<ul style="list-style-type: none"> 諸地域世界の歴史の大きな枠組みと展開について、主体的に調べたり分かろうとしたりする態度 持続可能な社会づくりを視野に入れて、歴史の大きな枠組みと展開についての理解を踏まえ、世界や日本の在り方を意欲的に探究しようとする態度 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚など 	<ul style="list-style-type: none"> 諸地域世界の歴史の大きな枠組みと展開について、主体的に調べたり分かろうとしたりする態度 持続可能な社会づくりを視野に入れて、歴史の大きな枠組みと展開についての理解を踏まえ、世界や日本の在り方を意欲的に探究しようとする態度 多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚など

補足資料：「公民的な資質・能力」、「公民としての資質・能力」について（たたき台）

社会科で養う資質・能力は「公民的な資質・能力」、地理歴史科、公民科で養う資質・能力は「公民としての資質・能力」と考えられる。

- 各教科等の改訂に向けた検討事項として、各教科等ごとに育てる資質・能力を、(1)知識・技能、(2)思考力・判断力・表現力等、(3)学びに向かう力・人間性の三つの柱で整理するに当たり、従前の教科目標として示していた資質を次のように改めて表現し直し、三つの柱の全てが結びついて養われるものとするのが考えられる。



- 「公民的な資質・能力」、「公民としての資質・能力」は、上記(1)、(2)、(3)の資質・能力の全てが結び付いて育まれることを通して養われる。そのことは、社会的な見方や考え方を培いながら積み重ねる「社会との関わりを意識した課題解決的な学習」を通して実現されると考えられる。
- 上記の資質・能力のうち、(3)については、他教科等が育成する資質・能力に共通する要素があると考えられる。その中で、「公民的な資質・能力」「公民としての資質・能力」を社会科、地理歴史科、公民科の教科固有の目標としている理由は、教科固有の知識を柱の一つとしていることや、社会的な見方や考え方を生かした多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される資質・能力を含んでいるからであると考えられる。

【参考】

教育基本法 第5条 「義務教育として行われる普通教育は、各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培い、また国家及び社会の形成者として必要とされる基本的な資質を養うことを目的として行われるものとする。」

学校教育法 第51条 「高等学校における教育は、前条に規定する目的を実現するため、次に掲げる目標を達成するように行われるものとする」

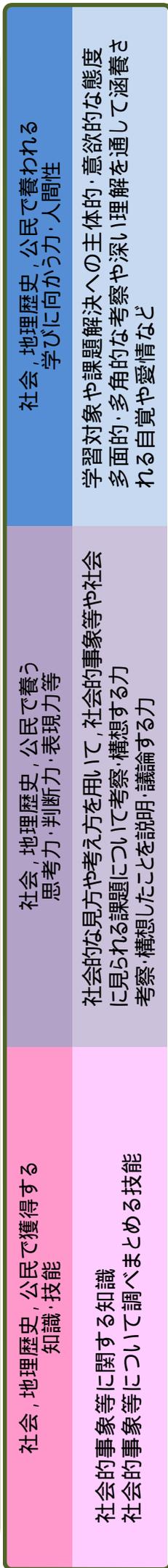
1項 「義務教育として行われる普通教育の成果を更に発展拡充させて、豊かな人間性、創造性及び健全な身体を養い、国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと」

社会的現象等について調べまとめる技能(案)

技能の例(小・中・高等学校)

<p>情報を収集する技能</p> <p>手段等を考え、課題解決に必要な情報を収集する技能</p>	<p>(1) 調査活動を通して 野外調査活動 ・調査の観点(数、量、配置等)に基づいて、現地の様子や実物を観察し情報を集める ・景観のスケッチや写真撮影等を通して観察し、情報を集める ・地図を現地に持って行き、現地との対応関係を観察し、情報を集める 社会調査活動 ・行政機関や事業者、地域住民等を対象に聞き取り調査、アンケート調査などを行い、情報を集める</p> <p>(2) 諸資料を通して 資料の種類 ・地図(様々な種類の地図)や地球儀から、位置関係や形状、分布、面積、記載内容などの情報を集める ・年表から、出来事やその時期、推移などの情報を集める ・統計(表やグラフ)から傾向や変化などの情報を集める ・新聞、図書や文書、音声、画像(動画、静止画)、現物資料などから様々な情報を集める</p>	<p>その他 ・模擬体験などの体験活動を通して人々の仕事などに関する情報を集める ・博物館や郷土資料館等の施設、学校図書館や公共図書館、コンピュータなどを活用して映像、読み物や紀行文、旅行経験者の体験記など様々な情報を集める ・コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用して、目的に応じて様々な情報を集める</p> <p>[3] 情報手段の特性や情報の正しさに留意して ・資料の表題、出典、年代、作成者などを確認して情報を集める ・情報手段の特性に留意して情報を集める ・情報発信者の意図、発信過程などに留意して情報を集める</p>
<p>情報を読み取る技能</p> <p>考え方に沿って読み取る技能</p>	<p>(1) 情報全体の傾向性を踏まえて ・位置や分布、広がり、形状などの全体的な傾向を読み取る ・量やその変化、区分や移動などの全体的な傾向を読み取る ・博物館や郷土資料館等の展示品目の配列から、展示テーマの趣旨を読み取る</p> <p>(2) 必要な情報を選んで 事実を正確に読み取る ・形状、色、数、種類、大きさ、名称などに関する情報を読み取る ・方位、記号、高さ、区分などを読み取る(地図) ・年号や時期、前後関係などを読み取る(年表) 有用な情報を選んで読み取る ・学習上の課題の解決につながる情報を読み取る ・諸情報の中から、目的に応じた情報を選択して読み取る</p>	<p>[3] 複数の情報を見比べたり結び付けたりして ・異なる情報を見比べ(時期や範囲の異なる地域の様子など)たり、結び付け(地形条件と土地利用の様子など)たりして読み取る ・同一の事象に関する異種の資料(グラフと文章など)の情報を見比べたり結び付けたりして読み取る ・同種の資料における異なる表現(複数の地図、複数のグラフ、複数の新聞など)を見比べたり結び付けたりして読み取る</p> <p>[4] 資料の特性に留意して ・地図の主題や示された情報の種類を踏まえて読み取る ・歴史資料の作成目的、作成時期、作成者を踏まえて読み取る ・統計等の単位や比率を踏まえて読み取る</p>
<p>情報をまとめる技能</p> <p>向けてまとめた情報を課題解決に</p>	<p>(1) 基礎資料として ・聞き取って自分のメモにまとめる ・地図上にドットでまとめる ・数値情報をグラフに転換する(雨温図など)</p> <p>(2) 分類・整理して ・項目やカテゴリなどに整理してまとめる ・順序や因果関係などで整理して年表にまとめる ・位置や方位、範囲などで整理して白地図上にまとめる ・相互関係を整理して図(イメージマップやフローチャートなど)にまとめる ・地理情報システム(GIS)などを用いて、デジタル化した情報を統合したり、編集したりしてまとめる</p>	<p>[3] 情報を受け手に向けた分かりやすさに留意して ・効果的な形式でまとめる ・主題に沿ってまとめる ・レイアウトを工夫してまとめる ・数値情報を主題図に変換する(階級区分図など)</p>

グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力の育成



* 丸番号は便宜的に付けたもの

① 収集し，読み取った情報を組み合わせて考察・構想し，説明・議論する

② 社会的な見方や考え方に沿って情報を収集する，読み取る，まとめる

社会的事象等について調べまとめる技能
（社会的事象等に関する情報を収集する・読み取る・まとめる技能）

社会や社会的事象等に関する知識
・ 社会生活に関する理解
・ 我が国や世界の地理に関する理解
・ 我が国や世界の歴史に関する理解
・ 現代社会に関する理解

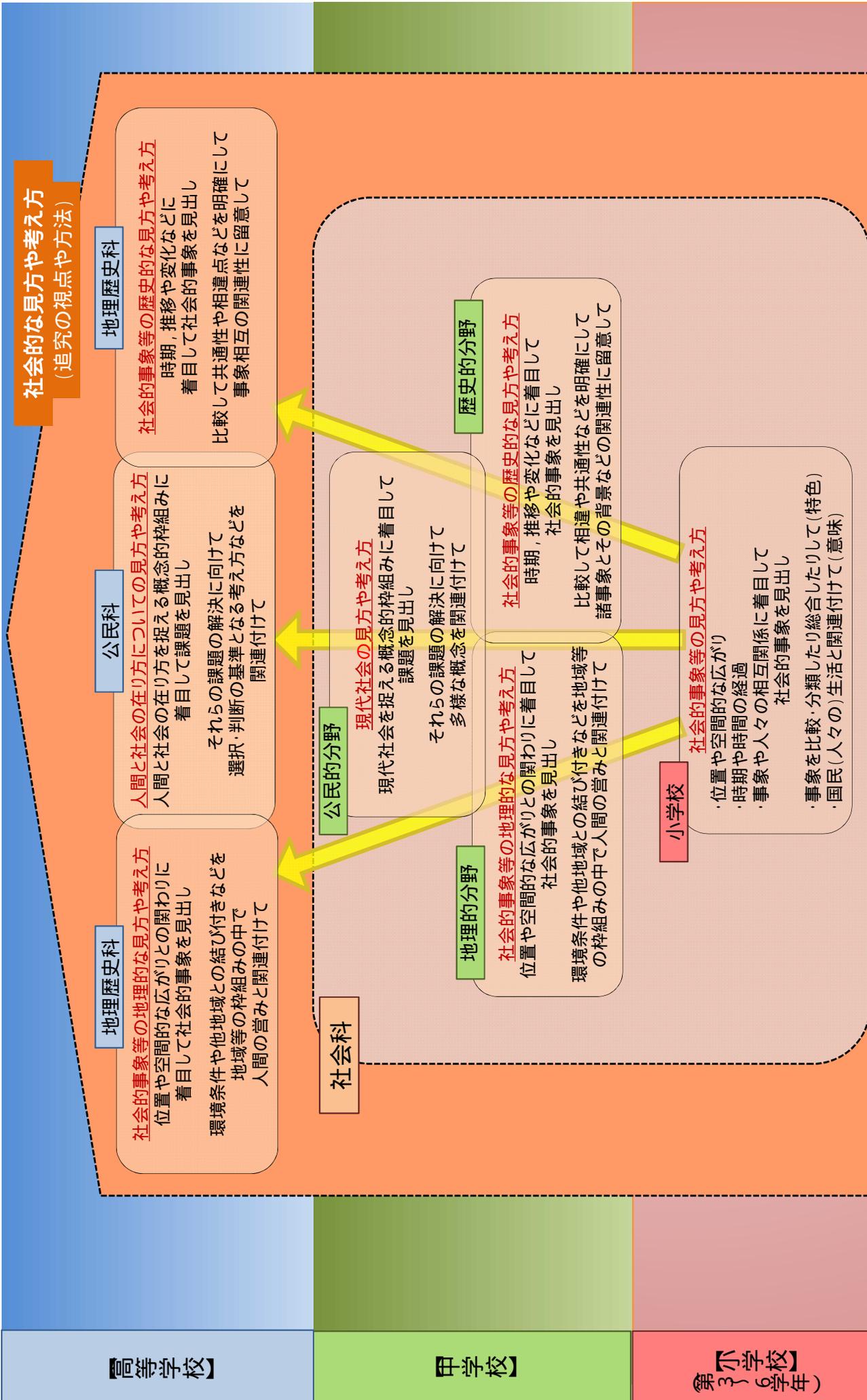
⑤ 理解した概念，理論を使って考察・構想し，説明・議論する
⑥ 考察・構想することで理解できる
⑦ 見方や考え方をを用いて概念を形成する
⑧ 学んだことを社会生活に生かそうとすることで「社会に参画しようとする態度」が養われる
⑨ 主体的に調べ知識を獲得する
⑩ 技能を生かして主体的に調べる

③ 意欲的に考察・構想し，説明・議論する

④ 社会に見られる課題を意欲的に解決しようとすることで「社会に参画しようとする態度」が養われる

学習対象（社会的事象等）について主体的に調べたり分かろうとしたりする態度
課題（学習上の課題，社会に見られる課題）を意欲的に解決しようとする態度
多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される自覚や愛情など

「社会的な見方や考え方」は、小・中・高等学校の各「見方や考え方」を総称する呼称である。
 ・社会的な見方や考え方は、深い学を表現するための思考力や判断力の育成や獲得する知識の構造化に不可欠であること、主体的に学習に取り組む態度や学習を通して涵養される自覚や愛情などにも作用することなどを踏まえると、資質・能力全体の要である。
 ・社会的な見方や考え方は、課題解決的な学習において、社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して解決に向けて構想したりする際の「追究の視点や方法」であり、小・中・高等学校と職種が上がるにつれて追究の視点やそれを生かした問いの質が高まることで成長するものである。



社会的な見方や考え方（追究の視点や方法）の例（案）

社会的な見方や考え方は、小・中・高等学校の各「見方や考え方」を総称する呼称であり、社会的在り方や、社会的現象等の意味や意義、特色や相互の関連等を考察する際の「追究の視点や方法」である

考察、構想した結果、獲得する知識の例

<p>いくつかの組立工場を中心に部品工場が集まり、工業が盛んな地域を形成している ・野の周囲は交通の結節点なので人が多いため商業施設が集まっている ・国土の地理的位置や地形、台風などの自然条件によって気候は異なる ・祭りは地域の豊作や人々のまとまりへの願いから始まった ・農作業は機械化により生産効率を向上させた ・伝統芸能は技や道具が継承されるとともに、多くの人々に受け入れられて今に至っている ・地域の安全は、関係機関の未然防止と緊急対応によって守られている ・食料生産は私たちの食生活を支える役割を果たしている ・政治には国民生活の安定と向上を図る動きがある</p>	<p>伝統と文化は受け継ぐだけでなく、時代に合わせ発展させていく必要がある ・世界の人々と共に生きるには、文化や考え方の違いを認め合い、課題を解決しながら理解し合っていくことが大切である</p>
<p>地球上の地点は、絶対的、相対的に表現できること ・(具体例) 明石市は大阪市の西にあり、その市立天文科学館は日本標準時子午線上の北緯34度39分、東経135度の外にある ・特定の現象は、地球の表面において特定の範囲に広がること ・(具体例) アフリカ大陸の一年中雨が降る地域には、常緑の密林帯が広がっている ・地球上の各地は、固有の性格があること ・(具体例) 広島市の沿岸部は、低平な三州州となっている ・人々の生活は自然の影響を受けるとともに、それを変化させること ・(具体例) 平野の美しい日本では、その傾斜地を段々畑や畑田にするなどして利用してきた ・場所は相互に関係をもち、影響を及ぼし合うこと ・(具体例) 多くの人口を抱えた大消費地東京の周辺では、新鮮な農産物を生産し、都市の住民に届ける近郊農業が盛んである ・空間的な広がりは、まとまりのある固有の特徴を持つこと ・(具体例) 中国地方の山間部では、人口減少や高齢化の進む過疎化に悩む地域が広がっている</p>	<p>・地球上の地点は、絶対的、相対的に表現できること ・(具体例) 明石市は大阪市の西にあり、その市立天文科学館は日本標準時子午線上の北緯34度39分、東経135度の外にある ・特定の現象は、地球の表面において特定の範囲に広がること ・(具体例) アフリカ大陸の一年中雨が降る地域には、常緑の密林帯が広がっている ・地球上の各地は、固有の性格があること ・(具体例) 広島市の沿岸部は、低平な三州州となっている ・人々の生活は自然の影響を受けるとともに、それを変化させること ・(具体例) 平野の美しい日本では、その傾斜地を段々畑や畑田にするなどして利用してきた ・場所は相互に関係をもち、影響を及ぼし合うこと ・(具体例) 多くの人口を抱えた大消費地東京の周辺では、新鮮な農産物を生産し、都市の住民に届ける近郊農業が盛んである ・空間的な広がりは、まとまりのある固有の特徴を持つこと ・(具体例) 中国地方の山間部では、人口減少や高齢化の進む過疎化に悩む地域が広がっている</p>

<p>どのように広がっているのだろうか ・なぜそここの場所に集まっているのだろうか ・地域ごとの気候はどのような自然条件によって異なるのだろうか ・いつどんな理由で始まったのだろうか ・どのように変わってきたのだろうか ・なぜ変わらずに続いているのだろうか ・どのような工夫や努力があるのだろうか ・どのようなつながりがあるのだろうか ・なぜその協力が必要なのだろうか</p>	<p>どのように広がっているのだろうか ・なぜそここの場所に集まっているのだろうか ・地域ごとの気候はどのような自然条件によって異なるのだろうか ・いつどんな理由で始まったのだろうか ・どのように変わってきたのだろうか ・なぜ変わらずに続いているのだろうか ・どのような工夫や努力があるのだろうか ・どのようなつながりがあるのだろうか ・なぜその協力が必要なのだろうか</p>
<p>それは、どこに位置するだろうか ・それは、どのように分布しているだろうか ・そこは、どのような場所だろうか ・そこでの生活は、まわりの自然環境からどのような影響を受けているのだろうか ・そこでの生活は、まわりの自然環境にどのような影響を与えているだろうか ・そこは、それ以外の場所とどのような関係を持っているだろうか ・その地域は、どのような特徴があるだろうか</p>	<p>それは、どこに位置するだろうか ・それは、どのように分布しているだろうか ・そこは、どのような場所だろうか ・そこでの生活は、まわりの自然環境からどのような影響を受けているのだろうか ・そこでの生活は、まわりの自然環境にどのような影響を与えているだろうか ・そこは、それ以外の場所とどのような関係を持っているだろうか ・その地域は、どのような特徴があるだろうか</p>
<p>なぜそのような判断をしたと考えられるか ・歴史を振り返り、よりよい未来の創造のために、どのようなことが必要とされるのか ・なぜそのような判断をしたと考えられるか ・歴史を振り返り、よりよい未来の創造のために、どのようなことが必要とされるのか</p>	<p>なぜそのような判断をしたと考えられるか ・歴史を振り返り、よりよい未来の創造のために、どのようなことが必要とされるのか ・なぜそのような判断をしたと考えられるか ・歴史を振り返り、よりよい未来の創造のために、どのようなことが必要とされるのか</p>
<p>なぜ市場経済という仕組みがあるのか、どのような機能があるのか ・民主的な社会生活を営むために、なぜ法に基づいた政治が大切なのか ・よりよい決定の仕方とはどのようなものか ・社会保障とその財源の確保の問題をどのように解決していったらよいのか ・世界平和と人類の福祉の増大のためにどのようなことができるか</p>	<p>なぜ市場経済という仕組みがあるのか、どのような機能があるのか ・民主的な社会生活を営むために、なぜ法に基づいた政治が大切なのか ・よりよい決定の仕方とはどのようなものか ・社会保障とその財源の確保の問題をどのように解決していったらよいのか ・世界平和と人類の福祉の増大のためにどのようなことができるか</p>

<p>社会的現象等の見方や考え方 位置や空間的な広がりが ・時期や時間の経過 ・現象や人々の相互関係 ・比較、分類したり総合したりして ・国民(人々の)生活と関連付けて</p> <p>追究の方法</p> <p>考察 社会的現象の特色や相互の関連、意味を多角的に考察する力</p> <p>構想 社会に見られる課題について、社会への関わり方を 選択・判断する力</p>	<p>社会的現象等の地理的な見方や考え方 位置や空間的な広がりとその関わりに着目して社会的現象を見出し ・環境条件や他地域との結び付きなどを地域等の枠組みの中で人間の営みと関連付けて</p> <p>追究の方法</p> <p>考察 社会的現象の特色や相互の関連、意味を多角的に考察する力</p> <p>構想 地域に見られる課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力</p>
<p>社会的現象等の歴史的な見方や考え方 時期、推移や変化などに着目して社会的現象を見出し ・比較して相違や共通性などを明確にして ・諸現象とその背景などの関連性に留意して</p> <p>追究の方法</p> <p>考察 時代の転換の様子や各時代の特色を多面的、多角的に考察する力</p> <p>構想 歴史に見られる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて選択・判断する力</p>	<p>現代社会の見方や考え方 現代社会を捉える概念的枠組みに着目して課題を見出し ・それらの課題の解決に向けて多様な概念を関連付けて</p> <p>追究の方法</p> <p>考察 社会的現象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的、多角的に考察する力</p> <p>構想 複数の立場や意見や踏まえて構想する力</p>

<p>小学校社会</p> <p>位置や空間的な広がりの視点 ・地理的位置、分布、地形、環境、気候、範囲、地域、構成、自然条件、社会的条件、土地利用など ・時期や時間の経過の視点 ・時代、起源、由来、背景、変化、発展、継承、維持、向上、計画、持続可能性など ・現象や人々の相互関係の視点 ・工夫、努力、願い、業績、働き、つながり、関わり、仕組み、協力、連携、対策、事業、役割、影響、多様性と共生(共に生きる)など</p>	<p>地理的分野</p> <p>位置や分布に関わる視点 ・絶対的、相対的 ・規則性、傾向性、地域差など ・場所に関わる視点 ・自然的、社会的など ・人間と自然の相互依存関係に関わる視点 ・環境依存性、伝統的、改善、保全など ・空間的相互依存作用に関わる視点 ・関係性、相互性など ・地域に関わる視点 ・一般的共通性、地方的特殊性など</p>
<p>中学校社会</p> <p>年代の基本に関わる視点 ・時期、年代、時代区分など ・諸現象の推移や変化に関わる視点 ・変化、発展、時代の転換など ・諸現象の特色に関わる視点 ・相違、共通性、時代の特色など ・現象相互の関連に関わる視点 ・背景、原因、結果、影響など</p>	<p>公民的分野</p> <p>現代社会を捉える視点 ・対立と合意、効率と公正、個人の尊重、自由、平等、選択、配分、法的安定性、多様性など ・社会に見られる課題の解決を構想する視点 ・対立と合意、効率と公正、民主主義、自由、権利と責任、義務、財源の確保と配分、利便性と安全性、国際協調、持続可能性など</p>

社会的な見方や考え方（追究の視点や方法）の例（案）

<p>考察、構想した結果、獲得する知識の例</p> <ul style="list-style-type: none"> 地球上の地点は、理由があり、そこに所在していること (具体例：択捉島が日本の国土の最北端であるのは、それが他の北方領土の島々とともに、日本の固有の領土だからである) 地球上の各地は、理由があり、多様な特徴を持つこと (具体例：東部アジアの高温多湿な地域では通気性を高めるため、シベリアの凍土地帯では住宅内の断熱を強がため、いすべりも床暖房は屋根を建ち上げている) 人々の生活は、理由があり、自然の影響を受けること (具体例：サハラ砂漠の南に広がるサハラ地域では、過度な放牧や農耕、薪の採取などにより砂漠化が進んでいる) 場所は、理由があり、相互に関係を持ち、影響を及ぼし合うこと (具体例：難民発生国と隣国への食料援助には、人道的な面とともに政治的混乱や周辺国への難民発生を抑制しようとする効果も考えられる) 空間的な広がりには、理由があり、固有の性格を持ち、変容すること (具体例：発展途上国には、政治や経済、文化、情報などの機能が首都に一極集中し、地域格差が拡大している国がある) 地域には、それが持つ地理的理由に基づいて、よりよい姿が求められること (具体例：シンガポールでは、地理的に交通の要衝にあることやその多民族性を生かして、国際的な物流の拠点や金融センターとしての国づくりを目指している) 地球上の地点が、そこに所在するのには意味があること (具体例：馬場や南島等の地名は、領土としてあるから、置かなければならない(置かざるを得ない)領土の起点として重要であり、その存在意義が注目されている) 地球上の各地が多様な特徴を持つのは意味があること (具体例：大都市の中心には、行政機関や大企業の本社等が集まることで、政治や経済の中枢管理機能を担っている) 人々の生活が自然の影響を受けるとともに、それを変化させるのには意味があること (具体例：ヨーロッパの過酷な自然環境下で生じた休耕地や放牧地を要する農業形態は、広い用地を必要としたことから、農地利用のための森林伐採を促し、平地地の減少を加速させたことなど) 場所が相互に関係を持ち、影響を及ぼし合うのには意味があること (具体例：都市部と周辺部の無秩序な開発は、その生活環境の悪化を引き起こすとともに、都市中心部と周辺部を結ぶ交通インフラ等にも悪影響を及ぼし、都市生活の質を低下させる) 空間的な広がりが、固有の性格を持ち、変容するのには意味があること (具体例：スペインで難民の言語が公用語となっているのは、複雑な民族間の軋轢を軽減し、多文化主義を推進しようとする意図がある) 地域には、それがたまたま意味、影響、役割、意義を踏まえた、よりよい姿が求められること (具体例：戦争により荒廃した国土を復興し、世界最先端の工業化社会、情報化社会を作り上げたい私たちが、その経験を多くの国々々に伝え、世界の繁栄に貢献していかなければならない) 一きく変化し、戦後は複数の条約の締結による国際秩序作りに第一次世界大戦を契機に大きく変化した、戦後は複数の条約の締結による国際秩序の安定化が図られた 20世紀前半の半の政治や経済、文化活動の参加は、マスメディアの発達などにより、これまで以上の制限や規制を超えて拡大した。人、資本、情報の移動が一層加速化した結果、情報化社会へとつながっていった 18-19世紀には、工業化や政治変動から新たな国家のくみが生まれ、その過程で人権思想が生まれた。人権思想の広まりには地域ごとに違いがあり、現代の課題へとつながっている 16世紀には、諸大國を結びつける国際商業が活性化の中で、日本やアジアの諸帝国が繁栄し、書を求めて進出した西欧との交流が盛んに行われた 市場経済の進展とともに、貧富の格差をめぐり、階級の問題が顕著となり、富の再分配をめぐり、動きが起る一方、国際社会では支配と従属の関係の深まりから新たな対立が生じ、現代社会における地域的な経済格差の問題との関連が指摘されている 歴史上の選択、判断の積み重ねが時代を築き、今後の社会を創造する(具体例：近代化をめぐり日本、アジア諸国の対応は異なり、その後の歴史の展開に大きな違いをもたらした) 金と南米が国境と互いの関係を定めたことで、約100年間の中国南北の平和が訪れた。この間、経済、産業、文化が発展し、人口も増えた 宗教改革は、ローマ教皇と神聖ローマ皇帝の権威をゆるがし、主権国家が宗教を管理して権力を強化しようとする動きがはじまりとなった モンゴル帝国はモンゴル人第一主義を採用し統治したが、ムガル帝国と清帝国はともに異なる民族や異なる出自の者を共存させる政策を採用した 日本で最初の国際定期洋行船が神戸とサンフランシスコに結ばれたのは、20世紀末のグローバルな経済、金融、政治の状況が深く関係している 従来は戦争のない状態を平和とし、戦争を防ぐための仕組みを作ることが課題であったが、今では、紛争のない社会の実現のために、差別や貧困などの構造的な問題にも着目するようになった ポリジェニキ政権は民族自治権を認めながら、スターリンは、非ロシア地域でのロシア化を進めた。連邦では、少数民族の抑圧の問題は解消されなかった 歴史上の課題について、時代背景を踏まえて多様な選択や判断を構想することは、現代を理解し今後の社会を展望する力となる(具体例：ミコフハン会議やワレトナム戦争の経験は、その後の外交に影響力を与えた) 	<p>追究の視点を生かした、考察や構想に向かう「問い」の例</p> <ul style="list-style-type: none"> それは、なぜそこに位置するのだろう それは、なぜそのように分布しているのだろう そこは、なぜそのような場所になったのだろう そこでの生活は、まわりの自然環境からなぜそのような影響を受けているのだろう そこでの生活は、まわりの自然環境になぜそのような影響を与えているのだろう そこは、それ以外の場所となぜそのような関係を持っているのだろう その地域はなぜそのような特徴があるのだろう なぜ、それは、そこにある、そのように広がる、そのような場所となる、そのような自然の恩恵を受ける、そのように自然に働き掛ける、他の場所とどのような関係を持つ、そのような地域となるべきなのだろう それが、そこに位置する意味(意義、役割、影響)は何だろう それが、そのように分布する意味は何だろう そこが、そのような場所である意味は何だろう そこでの生活は、まわりの自然環境からどのような影響を受けているのだろうか そこでの生活は、まわりの自然環境にどのような影響を与えているのだろうか そこが、それ以外の場所とどのような関係を持っている意味は何だろうか その地域がそのような特徴があるのはどのような意味があるのだろうか それが、そこにある、そのように広がる、そのような場所となる、そのような自然の恩恵を受ける、そのように自然に働き掛ける、他の場所とどのような関係を持つ、そのような地域となるべきなのだろうか いつどこで、誰によって、おこったか なぜおこった(何のために)行われたか どのような影響を及ぼしたか 何が、なぜ、どのように変化したか 何が転換したか 共通している(異なっている)ことは何か どのような相互関係があるか 何が課題として残されたか なぜそのような判断をしたと考えられるか どのような選択が可能だったか 歴史を振り返り、よりよい未来の創造のために何を展望するか いつどこで、誰によって、おこったか なぜおこった(何のために)行われたか どのような影響を及ぼしたか 何が、なぜ、どのように変化したか 何が転換したか 共通している(異なっている)ことは何か どのような相互関係があるか 何が課題として残されたか どんな意味や意義があるのか なぜそのような判断をしたと考えられるか どのような選択が可能だったか 歴史を振り返り、よりよい未来の創造のために何を展望するか 	<p>社会的現象等の地理的な見方や考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> 位置や空間的な広がりと関わりに着目して社会的現象を見出し 環境条件や他地域との結び付きなどを地域等の枠組みの中で人間の営みと関連付けて <p>考察</p> <p>地理に関する諸現象を地域という枠組みの中で多面的、多角的に考察する力</p> <p>構想</p> <p>持続可能な社会の構築のためにそこで生起する課題の解決に向けて、複数の立場や意見を踏まえて構想する力</p>	<p>社会的現象等の歴史的な見方や考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> 時期、推移や変化などに着目して社会的現象を見出し 比較して共通性や相違点などを明確にして 因果など事象相互の関連性に留意して <p>考察</p> <p>現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を多面的、多角的に考察する力</p> <p>構想</p> <p>歴史に見られる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて選択、判断する力</p>	<p>社会的現象等の歴史的な見方や考え方</p> <ul style="list-style-type: none"> 時期、推移や変化などに着目して社会的現象を見出し 共通性や相違点から特色を明確にしたり 因果など事象相互の関連性に留意して <p>考察</p> <p>諸地域や世界の歴史の大きな枠組みと展開を多面的、多角的に考察する力</p> <p>構想</p> <p>歴史に見られる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて選択、判断する力</p>
--	--	---	--	--

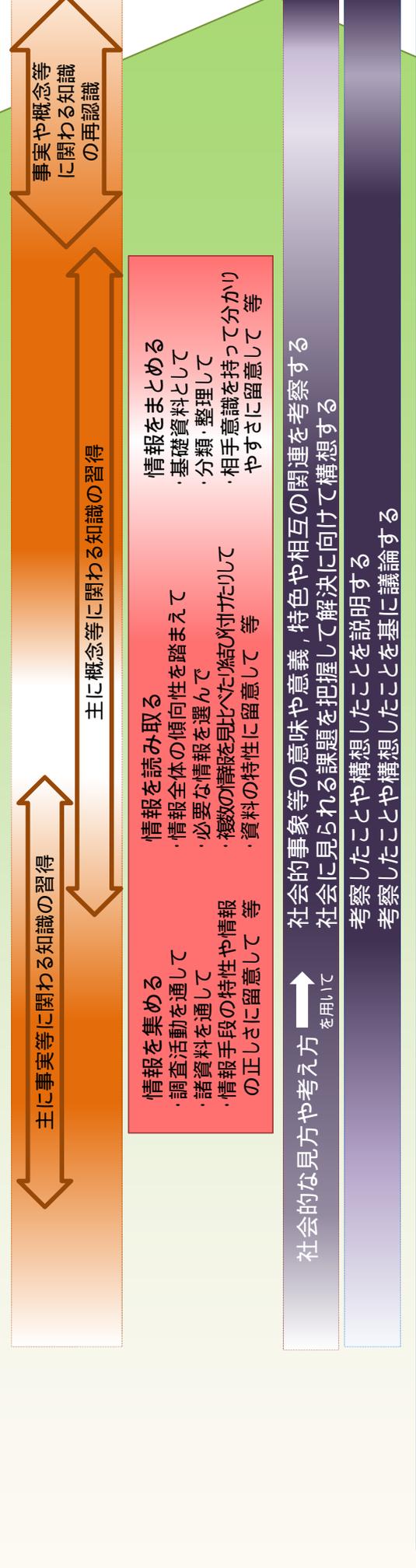
<p>考えられる追究の視点例</p> <ul style="list-style-type: none"> 位置や分布に関わる視点 時間距離、時差 等質(均質、同質)、類似 など 場所に関わる視点 共通性、多様性 など 人間と自然の相互依存関係に関わる視点 限界性、防災、減災 など 空間的相互依存作用に関わる視点 移動性、圏構造(都市圏...), グローバリ化 など 地域に関わる視点 規模、格差、変容、持続可能性 など 	<p>地理に関わる探究科目(仮称)</p> <ul style="list-style-type: none"> 位置や分布に関わる視点 経済距離、中心性 単一指標、複数指標、総合(指標) など 場所に関わる視点 立地、景観、民族性 など 人間と自然の相互依存関係に関わる視点 環境可能性、環境決定論 など 空間的相互依存作用に関わる視点 中枢管理機能、階層性 など 地域に関わる視点 構造、分化 など 	<p>歴史総合(仮称)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年代の基本に關わる視点 時期、年代、時代 など 諸事象の推移や変化に関わる視点 変化、継続、転換 など 諸事象の特色に関わる視点 相違、共通性 など 事象相互の関連に関わる視点 背景、原因、結果、影響、関係性、相互作用 など 	<p>世界史に関わる探究科目(仮称)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年代の基本に關わる視点 時期、年代、時代 など 諸事象の推移や変化に関わる視点 変化、継続、転換 など 諸事象の特色に関わる視点 相違、共通性、多様性、複合性、多元性 など 事象相互の関連に関わる視点 背景、原因、結果、影響、関係性、相互依存性 など
<p>地理総合(仮称)</p> <ul style="list-style-type: none"> 位置や分布に関わる視点 時間距離、時差 等質(均質、同質)、類似 など 場所に関わる視点 共通性、多様性 など 人間と自然の相互依存関係に関わる視点 限界性、防災、減災 など 空間的相互依存作用に関わる視点 移動性、圏構造(都市圏...), グローバリ化 など 地域に関わる視点 規模、格差、変容、持続可能性 など 	<p>地理に関わる探究科目(仮称)</p> <ul style="list-style-type: none"> 位置や分布に関わる視点 経済距離、中心性 単一指標、複数指標、総合(指標) など 場所に関わる視点 立地、景観、民族性 など 人間と自然の相互依存関係に関わる視点 環境可能性、環境決定論 など 空間的相互依存作用に関わる視点 中枢管理機能、階層性 など 地域に関わる視点 構造、分化 など 	<p>歴史総合(仮称)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年代の基本に關わる視点 時期、年代、時代 など 諸事象の推移や変化に関わる視点 変化、継続、転換 など 諸事象の特色に関わる視点 相違、共通性 など 事象相互の関連に関わる視点 背景、原因、結果、影響、関係性、相互作用 など 	<p>世界史に関わる探究科目(仮称)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年代の基本に關わる視点 時期、年代、時代 など 諸事象の推移や変化に関わる視点 変化、継続、転換 など 諸事象の特色に関わる視点 相違、共通性、多様性、複合性、多元性 など 事象相互の関連に関わる視点 背景、原因、結果、影響、関係性、相互依存性 など
<p>地理総合(仮称)</p> <ul style="list-style-type: none"> 位置や分布に関わる視点 時間距離、時差 等質(均質、同質)、類似 など 場所に関わる視点 共通性、多様性 など 人間と自然の相互依存関係に関わる視点 限界性、防災、減災 など 空間的相互依存作用に関わる視点 移動性、圏構造(都市圏...), グローバリ化 など 地域に関わる視点 規模、格差、変容、持続可能性 など 	<p>地理に関わる探究科目(仮称)</p> <ul style="list-style-type: none"> 位置や分布に関わる視点 経済距離、中心性 単一指標、複数指標、総合(指標) など 場所に関わる視点 立地、景観、民族性 など 人間と自然の相互依存関係に関わる視点 環境可能性、環境決定論 など 空間的相互依存作用に関わる視点 中枢管理機能、階層性 など 地域に関わる視点 構造、分化 など 	<p>歴史総合(仮称)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年代の基本に關わる視点 時期、年代、時代 など 諸事象の推移や変化に関わる視点 変化、継続、転換 など 諸事象の特色に関わる視点 相違、共通性 など 事象相互の関連に関わる視点 背景、原因、結果、影響、関係性、相互作用 など 	<p>世界史に関わる探究科目(仮称)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年代の基本に關わる視点 時期、年代、時代 など 諸事象の推移や変化に関わる視点 変化、継続、転換 など 諸事象の特色に関わる視点 相違、共通性、多様性、複合性、多元性 など 事象相互の関連に関わる視点 背景、原因、結果、影響、関係性、相互依存性 など
<p>地理総合(仮称)</p> <ul style="list-style-type: none"> 位置や分布に関わる視点 時間距離、時差 等質(均質、同質)、類似 など 場所に関わる視点 共通性、多様性 など 人間と自然の相互依存関係に関わる視点 限界性、防災、減災 など 空間的相互依存作用に関わる視点 移動性、圏構造(都市圏...), グローバリ化 など 地域に関わる視点 規模、格差、変容、持続可能性 など 	<p>地理に関わる探究科目(仮称)</p> <ul style="list-style-type: none"> 位置や分布に関わる視点 経済距離、中心性 単一指標、複数指標、総合(指標) など 場所に関わる視点 立地、景観、民族性 など 人間と自然の相互依存関係に関わる視点 環境可能性、環境決定論 など 空間的相互依存作用に関わる視点 中枢管理機能、階層性 など 地域に関わる視点 構造、分化 など 	<p>歴史総合(仮称)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年代の基本に關わる視点 時期、年代、時代 など 諸事象の推移や変化に関わる視点 変化、継続、転換 など 諸事象の特色に関わる視点 相違、共通性 など 事象相互の関連に関わる視点 背景、原因、結果、影響、関係性、相互作用 など 	<p>世界史に関わる探究科目(仮称)</p> <ul style="list-style-type: none"> 年代の基本に關わる視点 時期、年代、時代 など 諸事象の推移や変化に関わる視点 変化、継続、転換 など 諸事象の特色に関わる視点 相違、共通性、多様性、複合性、多元性 など 事象相互の関連に関わる視点 背景、原因、結果、影響、関係性、相互依存性 など

社会的な見方や考え方（追究の視点や方法）の例（案）

<p>高等学校地理歴史</p>	<p>考えられる追究の視点例</p> <p>年代の基本に関わる視点 時期、年代、時代区分 など</p> <p>諸事象の推移や変化に関わる視点 経緯、発展、時代の転換 など</p> <p>諸事象の特色に関わる視点 相違、共通性、時代性、多様性 地域性、 など</p> <p>事象相互の関連に関わる視点 背景、原因、結果、影響、関係性、相互依存性 など</p>	<p>社会、地理歴史、公民における思考力、判断力</p> <p>社会的事象等の歴史的な見方や考え方</p> <p>・時期、推移や変化などに着目して社会的事象を見出し ・共通性や相違点から特色を明確にしたり ・事象相互の関連性に留意して</p> <p>追究の方法</p> <p>考察 日本の歴史の展開、伝統と文化の特色を多面的・多角的に考察する力</p> <p>構想 歴史に見られる諸課題について、複数の立場や意見を踏まえて選択、判断する力</p>	<p>追究の視点を生かした、考察や構想に向かう「問い」の例</p> <p>いつどこで、誰によって、おこったか なぜおこった（何のために）行われたか どのような影響を及ぼしたか</p> <p>・何が、なぜ、どのように変化したか ・何が転換したのか ・共通している（異なっている）ことは何か ・どの時代と日本、世界はどのように関係したか ・どのような関係があるか ・何が課題として残されたか ・どんな意味や意義があるのか</p> <p>・なぜそのような判断をしたと考えられるか ・どんな選択が可能だったか ・歴史を振り返り、よりよい未来の創造のために何を展望するか</p>	<p>考察、構想した結果、獲得する知識の例</p> <p>・18～19世紀前半の社会構造は、幕府による政策的な対応にもかかわらず、経済・産業の成長の中で生じた矛盾によって次第に変化を生じていった ・中世の社会では、武士勢力や宗教勢力の拡大や庶民の台頭などが起こり、権力 の多様化が新しい文化や地域的な差異を生みだすなどの変化をもたらした ・日本の古代国家の形成過程における背景は、仏教文化の影響や国際関係の緊 張への対応など、東アジア共通の背景には、近代化の過程の日本の貿易 や国内の産業構造の変化が関係していた ・江戸時代の文化の特色には、江戸初期の経済発展による文芸の普及や生活文 化の上昇などによって、担い手の成長ももたらされたことが指摘できる ・戦後の日本経済の推移は、冷戦の国際状況と密接に関連して展開しており、現代 も世界情勢との関わりを踏まえて理解することが必要である ・生類憐みの令は人命に関わるものなど一部が後世に引き継がれたことから、戦国 から平和な時代への価値観の変化を促したとも評価できる ・歴史上の課題について、時代背景を踏まえて多様な選択や判断を構想することは 現代を理解し今後の社会を展望する力となる。具体例として社会の変化を背景に拡大した米 騒動には、国民意識の変化や情報化の進展などを踏まえた多様な対応の可能性が存在した が、当時の政権の選択による対応の結果は、後の政府の在り方に大きな影響を与えたこと が重要である</p>
<p>公共（仮称）</p>	<p>人間と社会の在り方を捉える視点 幸福、正義、公正、個人の尊厳、自由、平等、 寛容、委任、希少性、機会費用、 利便性と安全性、多様性と共通性 など</p> <p>公共的な空間に見られる課題の解決を構想 する視点 幸福、正義、公正、協働関係の共時性と通時性、 比較衡量、相互承認、適正な手続き、 民主主義、自由、権利と責任、義務、平等、 財源の確保と配分、平和、持続可能性 など</p>	<p>人間と社会の在り方についての見方や考え方</p> <p>・人間と社会の在り方を捉える概念的枠組みに着目して課題を 見出し ・それらの課題の解決に向けて選択、判断の基準となる考え方 などを関連付けて</p> <p>追究の方法</p> <p>考察 人間としての在り方生き方、社会的事象の意味や 意義、特色や相互の関連を多面的に考察 する力</p> <p>構想 複数の立場や意見を踏まえて、社会を形成する主 体として構想する力</p>	<p>・「自立した主体とは何か」を問い、自らを成長させるとともに、人間は社会的な存在 であることを認識し、対話を通じお互いを高め合うことの両者によってよりよい公 共的な空間を作り出していくことが大切である ・「選択、判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用 する」とともに、「個人を起点として、自立、協働の観点から多様性を尊重して持続可能 な地域づくりに向けた役割を担う主体となること」が大切である</p> <p>・「自立した主体とは何か」を問い、自らを成長させるとともに、人間は社会的な存在 であることを認識し、対話を通じお互いを高め合うことの両者によってよりよい公 共的な空間を作り出していくことが大切である ・「選択、判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用 する」とともに、「個人を起点として、自立、協働の観点から多様性を尊重して持続可能 な地域づくりに向けた役割を担う主体となること」が大切である</p>	
<p>倫理（仮称）</p>	<p>人間としての在り方生き方を捉える視点 善悪、生死、徳、愛、共感、幸福、義務、正義、 個人の尊厳、公正、寛容、存在、真理、聖、美 など</p> <p>現代の倫理的諸課題の解決を構想する視点 尊重、畏敬、創造、保全、自由、権利、責任、 自立、協働、勤労、多様性、相互承認、平和、 国際協調、持続可能性 など</p>	<p>人間としての在り方生き方についての見方や考え方</p> <p>・人間としての在り方生き方を捉える諸概念に着目して現代の倫 理的課題を見出し ・それらの課題の解決に向けて選択、判断の基準となる考え方や 哲学、宗教、芸術などに関わる理論を有機的に関連付けて</p> <p>追究の方法</p> <p>考察 人間としての在り方生き方に関わる事象の意味や 意義を多面的・多角的に考察する力</p> <p>構想 複数の立場や意見を踏まえて構想（選択、判断）す る力</p>	<p>・「価値あるよいもの」を求め、正しい行いを選ぼうとそれを実行する意志の強さを身 に付けた徳の高い人間を目指し生きる ・「自由権の保障」とも「不利な立場にある人々への配慮」も必要であるという考え方 を手がかりとして公正・公平な社会について考え続ける ・「存在の不思議への驚きから知識への深い懐疑が生じること、正解が定められなくな ること」自体に意味がある問いがあり、これを問い考え続けることが大切であること に気付く</p> <p>・「価値あるよいもの」を求め、正しい行いを選ぼうとそれを実行する意志の強さを身 に付けた徳の高い人間を目指し生きる ・「自由権の保障」とも「不利な立場にある人々への配慮」も必要であるという考え方 を手がかりとして公正・公平な社会について考え続ける ・「存在の不思議への驚きから知識への深い懐疑が生じること、正解が定められなくな ること」自体に意味がある問いがあり、これを問い考え続けることが大切であること に気付く</p>	
<p>政治経済（仮称）</p>	<p>社会の在り方を捉える視点 個人の尊厳、効率、公正、自由、平等、 委任、希少性、機会費用、選択、配分、分業、 交換、利便性と安全性、多様性と共通性 など</p> <p>社会に見られる課題の解決を構想する視点 対立、協調、効率、公正、 比較衡量、具体的な受容と法的安定性、 相互承認、適正な手続き、民主主義、 自由、権利と責任、義務、財源の確保と配分、 平和、持続可能性 など</p>	<p>社会の在り方についての見方や考え方</p> <p>・社会の在り方を捉える概念的枠組みに着目して社会の課題を 見出し ・それらの課題の解決に向けて選択、判断の基準となる考え方や 政治、法、経済などに関わる理論を有機的に関連付けて</p> <p>追究の方法</p> <p>考察 社会的事象の意味や意義、相互の特色や関連を多 面的・多角的に考察する力</p> <p>構想 複数の立場や意見を踏まえて社会を形成する主体 として構想し、合意形成する力</p>	<p>・「政治とは広義には、個人あるいは集団の考え方や意見、利害の対立や衝突を調 整したり解決したりすることにより、社会の秩序を維持し統合を図る機能を意味して いる」 ・「経済活動は分業と交換に基づき人間生活の維持、向上のためにに行われるもので あり、いずれの社会でも、何をどれだけ、どのような方法で、誰のために、生 産すべきか、生産された財やサービスをどのように社会の構成員に配分し、いかに に消費するかという経済的選択の問題を解決しなければならぬものである」 ・「望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方を考察、追究する際 には、現代政治における個人、政党及び圧力団体の行動、住民運動など現実社 会の事象を取り上げ、各個人の資力を基に様々な角度から主体的に考察すること が必要である」 ・「個人の尊厳、基本的人権の尊重を基盤に、理論と現実との相互関連に留意しな がら持続可能な地域社会となる在り方を考察、追究することが大切である」</p> <p>・「政治とは広義には、個人あるいは集団の考え方や意見、利害の対立や衝突を調 整したり解決したりすることにより、社会の秩序を維持し統合を図る機能を意味して いる」 ・「経済活動は分業と交換に基づき人間生活の維持、向上のためにに行われるもので あり、いずれの社会でも、何をどれだけ、どのような方法で、誰のために、生 産すべきか、生産された財やサービスをどのように社会の構成員に配分し、いかに に消費するかという経済的選択の問題を解決しなければならぬものである」 ・「望ましい政治の在り方及び主権者としての政治参加の在り方を考察、追究する際 には、現代政治における個人、政党及び圧力団体の行動、住民運動など現実社 会の事象を取り上げ、各個人の資力を基に様々な角度から主体的に考察すること が必要である」 ・「個人の尊厳、基本的人権の尊重を基盤に、理論と現実との相互関連に留意しな がら持続可能な地域社会となる在り方を考察、追究することが大切である」</p>	



主な学習過程の例



主な評価とその場面の例



学習過程全体について留意すべき点

- ・上記の学習過程及び評価の場面は例示であり，上例に限定されるものではないこと
- ・学習活動のつながりと学びの広がり(深い学び，対話的な学び，主体的な学び)を意図した，単元の構成の工夫等が望まれること
- ・社会的現象等については，児童生徒の考えが深まるよう様々な見解を提示することなどが重要であること。その際，特定の事柄を強調しすぎたり，一面的な見解を十分な配慮なく取り上げたりするなど偏った取扱いにより，児童生徒が多面的・多角的に考察し，事実を客観的に捉え，公正に判断することの妨げることのないよう留意すること。また，客観的かつ公正な資料に基づいて指導するよう留意すること

社会，地理歴史，公民における評価の観点等（案）

平成28年5月13日
教育課程部会社会・地理歴史・公民
ワーキンググループ 参考資料9

社会，地理歴史，公民で獲得する
知識・技能

社会，地理歴史，公民で育成する
思考力・判断力・表現力等

社会 地理歴史，公民で養われる
学びに向かう力・人間性

社会的事象等についての知識・技能

- 社会的事象等について（～は～であると）理解し，その知識を身に付けている
- 主として事実等に関わる知識
（用語・語句などを含める）
- 主として概念等に関わる知識
（特色，意味，理論など）
- 社会的事象等を調べまとめる技能（社会的事象等に関する情報を収集する・読み取る・まとめる技能）を身に付けている
- 情報全体の傾向性を踏まえ
- 必要な情報を選んで
- 複数の情報を見比べたり結び付けたりして
- 資料の特性に留意して
（例：情報を読み取る技能の場合）

社会的事象等についての 思考・判断・表現

- 社会的な見方や考え方をを用いて，社会的事象等を見出し，社会的事象等の意味や意義，特色や相互の関連を考察している
- 社会的な見方や考え方をを用いて，社会に見られる課題を把握し，その解決に向けて構想している
- 考察したことや構想したことについて，説明したり議論したりしている

主体的に社会的事象等に 関わりようとする態度

- 学習対象（社会的事象等）について主体的に調べたり分かろうとしたりしている
- 問いや追究の見通しを持って
- 振り返り，学んだことの意味に気付いて
- 身に付けた追究の視点を新たな問いに生かして
- 学んだことを社会生活に生かそうとして
- 課題（学習上の課題，社会に見られる課題）を意欲的に解決しようとしている
- 粘り強く（試行錯誤して）
- 他者と協働して
- よりよい社会を目指して

各教科等の評価の観点のイメージ（案）

平成28年2月24日
中教審 / 総則・評価特別部会
【資料3 - 1】より

観点(例) 実際に設定する各教科の観点は，教科の特質に対応して検討	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
各観点の趣旨のイメージ(例) 具体的な記述については，各教科の特質を踏まえ検討	(例) を理解している / の知識 を身に付けている / の技 することができ / の技 ることを身に付けている	(例) 各教科の特質に応じ育まれる見方や考え方をを用いて探究することを通じて，考えたり判断したり表現したりしている	(例) 主体的に知識・技能を身に付けたり，思考・判断・表現をしようとしていたりしている

社会，地理歴史，公民における現行の評価の観点等

平成28年5月13日
教育課程部会社会・地理歴史・公民
ワーキンググループ 参考資料9の補足資料

小学校社会科

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	観察・資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
社会的事象に関心をもち、それを意欲的に調べ、社会の一員として自覚をもつてよりよい社会を考えようとする。	社会的事象から学習問題を見いだして追究し、社会的事象の意味について思考・判断したことを適切に表現している。	社会的事象を的確に観察，調査したり，各種の資料を効果的に活用したりして，必要な情報をまとめている。	社会的事象の様子や働き，特色及び相互の関連を具体的に理解している。

中学校社会科

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な 思考・判断・表現	資料活用の 技能	社会的事象についての 知識・理解
社会的事象に対する関心を高め、それを意欲的に追究し、よりよい社会を考え自覚をもって責任を果たそうとする。	社会的事象から課題を見いだし、社会的事象の意義や特色，相互の関連を多面的・多角的に考察し、社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	社会的事象に関する諸資料から有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	社会的事象の意義や特色，相互の関連を理解し、その知識を身に付けている。

高等学校地理歴史科

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
歴史的・地理的事象に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国際社会に主体的に生き国家・社会を形成する日本国民としての責務を果たそうとする。	歴史的・地理的事象から課題を見いだし、我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を世界的視野に立って多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	歴史的・地理的事象に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	我が国及び世界の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色についての基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。

高等学校公民科

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
現代の社会と人間にかかわる事柄に対すする関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、平和で民主的なよりよい社会の実現に向けて参加、協力する態度を身に付け人間としての在り方生き方についての自覚を深めようとする。	現代の社会と人間にかかわる事柄から課題を見いだし、社会的事象の本質や人間の存在及び価値などについて広い視野に立って多面的・多角的に考察し、社会の変化や様々な考え方を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	現代の社会と人間にかかわる事柄に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	現代の社会的事象と人間としての在り方生き方とにかかわる基本的な事柄を理解し、その知識を身に付けている。

算数・数学ワーキンググループにおける検討事項

1. 算数・数学を通じて育成すべき資質・能力について
 - ・算数・数学を学ぶ本質的な意義や他教科との関連性について
 - ・三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
 - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
 - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
 - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性など）
 - ・幼稚園・小学校・中学校・高等学校を通じた算数・数学において育成すべき資質・能力の系統性について
 - ・算数科・数学科において育成すべき資質能力と指導内容との関係について
 - ・統計的な内容等の充実について

2. アクティブ・ラーニング（※）の三つの視点を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき算数・数学の指導等の改善充実の在り方について

3. 資質・能力の育成のために重視すべき算数・数学の評価の在り方について

4. 必要な支援（特別支援教育の観点から必要な支援等を含む）、条件整備等について

※アクティブ・ラーニングの三つの視点（企画特別部会「論点整理」18ページ参照）

- i) 習得・活用・探究という学習プロセスの中で、問題発見・解決を念頭に置いた深い学びの過程が実現できているかどうか。
- ii) 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める、対話的な学びの過程が実現できているかどうか。
- iii) 子供たちが見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる、主体的な学びの過程が実現できているかどうか。

算数・数学ワーキンググループにおけるとりまとめのイメージ（案）

1．現行学習指導要領の成果と課題

算数科、数学科においては、発達段階に応じて、算数的活動・数学的活動を充実させ、基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付け、数学的な思考力・表現力を育て、学ぶ意欲を高めること等に重点を置いて、現行の学習指導要領に改訂され、その充実が図られてきているところである。

その結果、「OECD 生徒の学習到達度調査（PISA）」（2012 年）における数学的リテラシーは、読解力、科学的リテラシーとともに、平均得点が比較可能な調査回以降、最も高くなっているなどの成果が見られる。また、文部科学省においては、先進的な理数教育を行う高等学校等をスーパーサイエンスハイスクールとして指定し、支援を行っており、これらの学校では、高校段階から課題研究などに積極的に取り組み、成果をあげている。

その一方で、学力の上位層の割合はトップレベルの国・地域よりも低く、数学を学ぶ楽しさや、学習する意義を実感している中学生の割合も国際比較で見て低い結果となっている。また、小学校と中学校の間で算数・数学の勉強に対する意識にギャップがあり、小学校から中学校に移行すると、数学の学習に対し肯定的な回答をする子供の割合が低下する傾向にある。

さらに、小学校では、「基準量、比較量、割合の関係を捉え、基準量を求めること」、中学校では、「数学的な表現を用いて理由を説明すること」に課題が見られた。（平成 27 年度全国学力・学習状況調査）また、高等学校では、「数学学習に対する意欲が高くないこと」や「事象を式で数学的に表現したり論理的に説明したりすること」が課題として指摘されている。

今回の学習指導要領の改訂においては、これらの課題に適切に対応できるよう改善を図っていくことが必要である。

2．育成すべき資質・能力を踏まえた教科等目標と評価の在り方について

（1）教科等の特質に応じ育まれる見方や考え方

各教科においては、育成すべき資質・能力の 3 つの柱を明確化し、深い学びにつなげていくことが求められているが、その際、各教科の特性に応じ育まれる「見方や考え方」が重要である。

算数・数学において養う見方や考え方については、これまでの学習指導要領において、小学校（昭和 33 年改訂，昭和 43 年改訂），中学校（昭和 33 年改訂，昭和 44 年改訂），高等学校（昭和 35 年改訂，昭和 45 年改訂）において「数学的な考え方」と示され、そ

のときから評価の観点名として「数学的な考え方」という言葉が定着している。その後、学習指導要領においては、小学校では、「数理的な処理のよさ」（平成元年改訂）、「算数的活動の楽しさや数理的な処理のよさ」（平成20年改訂）、中学校及び高等学校では、「数学的な見方や考え方のよさ」（平成元年改訂・平成10年改訂）、「数学のよさ」（平成20年改訂）など、表現を変えながらもその重要性が指摘されてきたところであるが、今回、育成すべき資質・能力の3つの柱を明確化したことに合わせて改めて整理することが必要である。

算数・数学の学習においては、この数学的な見方や考え方を働かせながら、知識・技能を習得したり、習得した知識・技能を活用して探究したりすることにより、知識の定着・構造化が図られ、技能の習熟・熟達にもつながるとともに、より広い領域や複雑な事象をもとに思考・判断・表現できる力が育成される。このような学習を通じて、数学的な見方や考え方がさらに成長し、重要な資質・能力として獲得されていくと考えられる。

また、算数・数学において育成すべき「学びに向かう力や人間性等」についても、数学的な見方や考え方を通して社会や世界にどのようにかかわっていくかという点が大きく作用しており、数学的な見方や考え方は資質・能力の3つの柱である「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力や人間性等」のすべてに働くものであり、かつすべてを通して育成されるものとして捉えられる。

上記で示した数学的な見方や考え方のうち、「数学的な見方」については、事象を数量や図形及びそれらの関係等に着目してその特徴や本質を捉えることであると整理することができる。

また、算数・数学の学習における「数学的な考え方」については、目的に応じて数・式、図、表、グラフ等を活用し、論理的に考え、問題解決の過程を振り返るなどして既習の知識・技能等を関連付けながら統合的・発展的に考えることであると整理される。

これらを踏まえると、算数・数学において育成される数学的な見方や考え方については、「事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的に考えること」として再整理することが適当と考える。

（2）小・中・高を通じて育成すべき資質・能力の整理と、教科等目標の在り方

今回の学習指導要領の改訂に際しては、幼児期に育まれた数量・図形への関心・感覚等の基礎の上に、小・中・高等学校教育を通じて育成すべき資質・能力を、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」の3つの柱に沿って明確化し、各学校段階を通じて、実社会との関わりを意識した数学的活動の充実等を図っていくことが求められる。

そのため、本ワーキンググループにおいては、算数・数学において育成すべき資質・能力について、学校段階ごとに以下のとおり整理した（資料 ）。学校段階ごとの算数・数

学の教科目標についても、このような資質・能力の整理に基づき、今後検討していくことが求められる。

(小学校)

数学的な見方や考え方を働かせ、算数の学習を生活や学習に活用するなどの数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する。

数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を数理的に処理する技能を身に付ける。

日常の事象を数理的に捉え見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形の性質などを見いだし統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり柔軟に表したりする力を養う。

数学のよさに気づき、算数の学習を生活や学習に活用したり、学習を振り返ってよりよく問題解決したりする態度を養う。

(中学校)

数学的な見方や考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する。

数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり表現したりする技能を身に付ける。

事象を数学を活用して論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

数学のよさを実感し、数学を活用して粘り強く考え、生活や学習に生かしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善したりする態度を養う。

(高等学校)

数学的な見方や考え方を働かせ、本質を明らかにするなどの数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を育成する。

数学における基本的な概念や原理・法則などを体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり表現したりする技能を身に付ける。

事象を数学を活用して論理的に考察する力、思考の過程を振り返って本質を明らかにし統合的・発展的に考察する力や、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。

数学のよさを認識し、数学を活用して粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断したり、問題解決の過程を振り返って評価・改善したりする態度を養う。

また、これらの資質・能力について、「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力や人間性等」の3つの柱に沿った整理を行い、資料 のとおり本ワーキンググループとして取りまとめたところである。

(3) 資質・能力を育む学習過程の在り方

上記(2)に掲げた資質・能力を育成していくためには、学習過程の果たす役割がきわめて重要である。算数・数学においては、資料 に示したとおり、日常生活や社会の事象を数理的に捉え、数学的に表現・処理し、問題を解決し、解決過程を振り返り得られた結果の意味を考察する、という問題解決の過程と、数学の事象について統合的・発展的に捉えて新たな問題を設定し、数学的に処理し、問題を解決し、解決過程を振り返って概念を形成したり体系化したりする、という問題解決の過程の2つのサイクルが相互にかかわり合って展開することにより、資料 に掲げた資質・能力が育成されるよう指導の改善を図ることが重要である。

また、意見交換や議論など協働的な学びを適宜取り入れていくことが必要であるが、その際にはあらかじめ自己の考えを意識した上で、主体的に取り組むようにすることが求められる。

(4) 「目標に準拠した評価」に向けた評価の観点の在り方

「目標に準拠した評価」の実質化を図るとともに、教科・校種を越えた共通理解に基づく組織的な取組を促す観点から、観点別評価の観点については、資質・能力の3つの柱を踏まえたものとするのが求められている。

このため、本ワーキンググループにおいては、上記(2)に掲げた資質・能力を踏まえつつ、資料 のとおり観点を整理したところである。

この点に関し、「知識・技能」については、事実的な知識のみならず、構造化された概念的な知識を含みさらなる概念形成に向かうものであることや、一定の手順に沿って処理する技能のみならず、変化する状況に応じて主体的に活用できる技能やそのような技能の習熟・熟達に向かうものまでも含めた、広範な意味で用いられていることに留意することが必要である。

また、資質・能力のうち「学びに向かう力、人間性等」の部分については、「主体的に学習に取り組む態度」として観点別評価を通じて見取ることができる部分と、観点別評価や評定にはなじまず、個人内評価を通じて見取る部分があり、ここでは観点別評価として見取るべきものを掲げていることに留意する必要がある。

3. 資質・能力の育成に向けた教育内容の改善・充実

(1) 科目構成の見直し

(数学活用を廃止し、数学C及び理数探究(仮称)を創設することについて記載)

(2) 資質・能力の整理と学習過程の在り方を踏まえた教育内容の構造化

(学習指導要領への反映についての基本的方向性を記載予定)

上記 2 . (2) に掲げた資質・能力を育成していく観点から、それぞれの学校段階において、以下のような学習活動が充実されるよう、学習指導要領の内容を見直ししていくことが必要である。

小学校においては、

- ・ 事象を数理的に考察したり、自分の考えを数学的に表現し処理したり、友達の考えから学んだり、学習の過程と成果を振り返ったりする学習活動
- ・ 具体物、図、数、式、表、グラフ相互の関連を図り、問題解決する学習活動

中学校においては、

- ・ 問題解決に必要な情報を生徒自らが集めたり選択したりする活動や、帰納的に考え自らきまりを見付ける活動、見いだしたきまりを既習の内容を生かして演繹的に説明する活動
- ・ 既習の内容を振り返って関連を図ったり、新たに学んだ内容を用いると、どのようなことができるようになるのかなどについて明らかにしたりする活動

高等学校においては、

- ・ 学習内容を生活と関連付けたり、生徒の疑問を取り上げたりして生徒の数学学習に対する関心や意欲を高める活動
- ・ 学習の過程を振り返って、本質を明らかにしたり学習内容を整理し直したりして、自ら見いだした問題を解決する活動

(3) 現代的な諸課題を踏まえた教育内容の見直し

社会生活などの様々な場面において、必要なデータを収集して分析し、その傾向を踏まえて課題を解決したり意思決定をしたりすることが求められており、そのような能力を育成するため、高等学校情報科等との関連も図りつつ、小・中・高等学校教育を通じて統計的な内容等の改善について検討していくことが必要である。

小・中学校においては、例えば、日常生活や社会などにかかわる疑問をきっかけにして問題を設定し、それを解決するために必要なデータを集めて表現・処理し、現状や傾向を把握したり、2つ以上の集団を比較したりするなどして問題の解決に向けた活動を充実することが適当である。また、理科の季節の移り変わりや算数の折れ線グラフの学

習を関連付けることや、理科や社会、総合的な学習の時間など他教科等での学習内容との関連等に留意することが望まれる。

高等学校においては、統計をより多くの生徒が履修できるよう科目構成及びその内容について見直すとともに、必修科目の内容を充実させること、選択科目の統計の内容を様々な場面で「使える統計」となるよう改善を図る。また、数学で学習した統計の基本的な知識や技能等を基盤としつつ、情報科において統計を活用して問題解決する力を育むなど、情報科との関連を充実する。

4 . 学習・指導の改善充実や教材の充実

(1) 特別支援教育の充実、個に応じた学習の充実

現行学習指導要領においては、総則において、「個々の児童の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。」(小学校学習指導要領の例。中学校、高等学校も同様)と記載されているところであるが、今後は、各教科等における指導の場面における適切な配慮が一層充実されるよう工夫を講じる必要がある。

このため、各教科等における具体的な学習の場面で考えられる困難さに対する配慮の例について、以下のような形で学校現場に明示していくことが適当である。

算数・数学における配慮の例

- ・ 同系色の方眼紙の目盛りが読み取りにくい場合は、正しい位置に印が付けやすいように、罫線の色を変更したり、マス目を大きくしたり、マーカーの色を変更したりするなどの配慮をする。
- ・ 「商」「等しい」など、児童が日常生活で使うことが少なく、抽象度の高いことばの理解が困難な場合は、児童がイメージを持つことができるよう、児童の興味・関心や生活経験に関連の深い題材を取り上げる、既習の言葉や分かる言葉に置き換えるなどの配慮をする。
- ・ 四則の混合した式や()を用いた式について理解し、正しく計算することが難しい場合、計算のきまりを理解させるために、計算の順番を示した手順書を手元に置かせたり、式を分解してそれぞれを計算させ、混合式との比較をさせたりするなどの工夫を行う。
- ・ 目的に応じて折れ線グラフで表すことが難しい場合、目的に応じたグラフの表し方があることを理解するために、同じデータについての縦軸の幅を変えたり、読みやすさや読みにくさを強調したグラフを見比べたりするなどの活動を通して、よりよい表し方に気付かせる配慮をする。

- ・文章を読み取り，文字式を用いて数量の関係に表すことが難しい場合，生徒がイメージを豊かにして数量の関係を把握できるように，生徒の経験に基づいた場面や興味のある題材を取り上げ，解決に必要な情報に注目させたり，場面を図式化したりすることなどの工夫を行う。
- ・空間図形のもつ性質を理解することが難しい場合，空間における直線や平面の位置関係をイメージできるように，立体模型を持たせながら，言葉でその特徴を説明したり，見取図や投影図と見比べて位置関係を把握したりするなどの工夫を行う。

(2) 「深い学び」「対話的な学び」「主体的な学び」に向けた学習・指導の改善充実

(1 3 日の議論を受けて、記述予定)

(3) 教材の在り方

(1 3 日の議論を受けて、記述予定)

5 . 必要な条件整備等について

- ・指導体制に関する考え方
- ・探究的な学習を深めていくうえで必要な ICT 環境の整備等
- ・入試の在り方
- ・短時間学習の実施に係る留意点

(1 3 日の議論を受けて、記述予定)



【高等学校】

- ◎ 学問的な見方や考え方を働かせ、本質を明らかにするなどの学問的な活動を通して、学問的に考える資質・能力を育成する。
- ① 学問における学問的な概念や原理・法則などを体系的に理解するとともに、事象を学問化したり、学問的に解釈したり表現したりする技能を身に付ける。
- ② 事象を学問を活用して論理的に考察する力、思考の過程を振り返って本質を明らかにし学問的・学問的に考察する力や、学問的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- ③ 学問のよさを認識し、学問を活用して粘り強く考え、学問的論拠に基づき判断したり、問題解決の過程を振り返って評価・改善したりする態度を養う。
- それぞれの内容を生活と関連付けたり、生徒の疑問を取り上げたりするなど生徒の学問学習に対する関心や意欲を高める。
- 学問の過程を振り返り、本質を明らかにしたり学問内容を整理し直したりして、自ら見いだした問題を解決する活動を充実する。

【中学校】

- ◎ 学問的な見方や考え方を働かせ、学問的な活動を通して、学問的に考える資質・能力を育成する。
- ① 数量や図形などに関する学問的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を学問化したり、学問的に解釈したり表現したりする技能を身に付ける。
- ② 事象を学問を活用して論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし学問的・学問的に考察する力や、学問的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。
- ③ 学問のよさを実感し、学問を活用して粘り強く考え、生活や学問に生かしたり、問題解決の過程を振り返って評価・改善したりする態度を養う。
- 問題解決に必要な情報を生徒自らが集めたり選択したりしたりして演繹的に説明する活動を充実する。
- 既習の内容を振り返って関連を図ったり、新たに学んだ内容を用いると、どのようなことができるようになったのかなどについて明らかにしたりする活動を充実する。



【小学校】

- ◎ 学問的な見方や考え方を働かせ、算数の学習を生活や学問に活用するなどの学問的な活動を通して、学問的に考える資質・能力を育成する。
- ① 数量や図形などについての学問的な概念や性質などを理解するとともに、日常の事象を学問的に処理する技能を身に付ける。
- ② 日常の事象を学問的にとらえ見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・学問的な数量や図形の性質などを見いだし学問的・学問的に考察する力や、学問的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現したり柔軟に表現したりする力を養う。
- ③ 学問のよさに気づき、算数の学習を生活や学問に活用したり、学習を振り返ってよりよく問題解決したりする態度を養う。
- 事象を学問的に考察したり、自分の考えを学問的に表現し処理したり、友達の考えから学んだり、学問の過程と成果を振り返りたりする学習活動を充実する。
- 具体物、図、数、式、表やグラフ相互の関連を図り、問題解決する学習活動を充実する。



【幼児教育】(教育課程部会幼児教育部会において、本ワーキンググループでの議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の明確化について審議)

- 生活や遊びの中で、数量などに親しむ体験を重ねたり、標識や文字の役割に気付いたりし、必要感に応じてこれらを活用するようになる。

事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、
論理的、統合的・発展的に考えること

高等学校
数学

事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、
論理的、統合的・発展的、体系的に考えること

中学校
数学

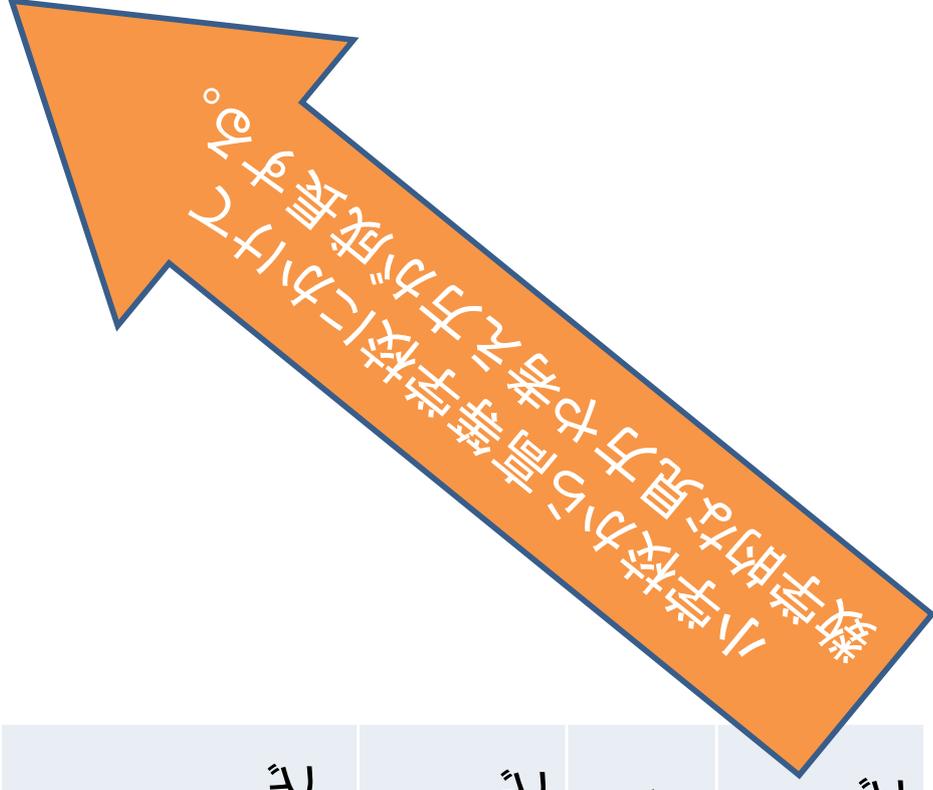
事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、
論理的、統合的・発展的に考えること

小学校
算数

事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、
根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること

事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して
捉え，論理的，統合的・発展的に考えること

事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え，	数に着目する。 数で表現しようとする。 量に着目する。 図形に着目する。 数量や図形の関係に着目する。 など
論理的に考えたり，	帰納的に考えようとする 順序よく考えようとする。 根拠を明らかにする。 など
統合的・(に考える。)	関連づける。 既習の事柄と結びつける。 など
発展的に考えたりする。	適用範囲を広げる。 条件を変える。 新たな視点から捉え直す。 など



事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、論理的、統合的・発展的、体系的に考えること

領域 (高等学校)	見方(例) 《事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え》	考え方(例) 《論理的、統合的・発展的・体系的に考える》
数と式	事象の数量に着目したり、数の演算の可能性や式の形などに着目したりする。	数概念を演算法則が不変になるように拡張しての図形的な意味を考えたり、式を目的に応じて変形しその式の性質を考えたりする。
図形	事象を「形」「大きさ」「位置関係」に着目したり、図形の不変な性質に着目したりする。	論理的に性質を考察して説明したり、代数的な方法と図形的な方法に対応させ、双方のよさを生かしながら考える。
関数	事象の中にある数量の関係や対応関係に着目する。	対応関係を式で表現し変化の様子を捉えるとともに、関数の性質を統合的・発展的・体系的に考える。
確率・統計	不確定な事象をモデル化したり、データに基づいたりして捉える。	割合や指標を導入して本質を表現し、将来の予測や意思決定へとつなげようとする。

事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、
論理的、統合的・発展的に考えること

領域 (中学校)	見方(例) 《事象を数量や図形及びそれらの関係 などに着目して捉え》	考え方(例) (論理的、統合的・発展的に考える)
数と式	事象を数や数量に着目して捉える。	式などに表現して形式的に処理するとともに、論理的、統合的・発展的に考える。
図形	事象を「形」「大きさ」「位置関係」に着目して捉える。	直観的に操作したり、論理的に推論したりするとともに、統合的・発展的に考える。
関数	事象の中にある数量の関係を見だし、既習の関数と仮定して捉える。	形式的に処理し、導かれた結果を事象に照らして解釈することなどから統合的・発展的に考える。
資料の活用	複雑な事象をデータ化して捉える。	確率的・統計的に処理し、導かれた結果を事象に照らして解釈することなどから統合的・発展的に考える。
	具体化，抽象化，理想化，単純化，一般化，特殊化，記号化，数量化，図形化	帰納的に考える 類推的に考える 演繹的に考える

小学校 数学的な見方や考え方(案)

事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること

見方(例) 各教科ならではの特徴的な見方		考え方(例) 思考の枠組み
領域	数量や大きさに着目する。構造を捉えるために場面に着目する。など	具体物や図、式などを用いて考える。具体物や図、式の相互の関係を考える。数の大きさを变えて、統合的・発展的に考える。など
	量(もの大きさ)に着目する。など	比較する。(差で、倍で)測定する。など
図形	形に着目する。(低～)など	概念を形成したり性質を見いだしたりするために相異点と類似点を考える。論理的に考える。形を変えて、統合的・発展的に考える。など
数量関係	数量や図形についての事柄と他の捉えやすい事柄との関係に着目する。など	決まれば決まるのかどうか考える。特徴や傾向を見いだすために、関係を、言葉、数、式、表、グラフを表すことを考える。など
	構造を捉えるために、場面の数量の関係に着目する。など	テープ図や数直線などのモデルとの対応を考える。整数から小数などに拡張して発展的に考える。一般的に表すことを考える。など
	集団の傾向や変化の様子などを捉えるために統計的なデータに着目する。など	目的に応じて表現するのに適切なグラフは何かを考える。処理した結果(グラフ、代表値)について、基の事象に当てはめた解釈を考える。など

「見方や考え方」とは、様々な事象等を捉える各教科等ならではの視点や、各教科等ならではの思考の枠組みであると考えられる。こうした「見方や考え方」と育成すべき資質・能力の関係について、以下のような整理ができるのではないか(別添イメージ図参照)。

・「見方や考え方」は、知識・技能を構造化して身に付けていくために不可欠である。「見方や考え方」を働かせながら、知識・技能を習得したり、知識・技能を活用して探究したりすることにより、知識を他と関連づけて定着させたり、構造化された新たな知識として習得したり、技能を習熟・熟達させたりすることができる。

・「見方や考え方」が成長することにより、思考力・判断力・表現力が豊かなものとなり、より広い領域や複雑な事象をもとに思考・判断・表現できる力として育成されていく。

・学びに向かう力や人間性の育成には、どのような「見方や考え方」を通じて社会や世界にどのようなに関わるかという点が大きく作用している。

子供たちが習得・活用・探究を見通した学習過程の中で、「見方や考え方」を働かせて思考・判断・表現し、「見方や考え方」を成長させながら、資質・能力を獲得していけるような学びが、「アクティブ・ラーニング」の視点である「深い学び」ではないかと考えられる。

・習得・活用・探究を見通した学習過程の中で、各教科等ならではの視点で事象等を捉え、各教科ならではの思考の枠組みを用いて思考・判断・表現することなどを通じて、子供たちの「見方や考え方」が成長していくことが重要である。教員には、そうした学びの実現により、各教科等の内容に関する深い理解や資質・能力の育成が図られるよう、指導内容を組み立て、子供たちに関わっていくことが求められる。

・その際、各教科等の指導内容を組み立てる際の視点の一つとして、子供たち一人一人の「見方や考え方」の困難さを捉え、必要な支援等を工夫し、その成長を支えていくことも重要である。

習得・活用・探究の見通しの中で、教科等の特質に応じた見方や考え方を働かせて思考・判断・表現し、学習内容の深い理解につなげる「深い学び」が実現できているか。

算数・数学では、既習の数学、日常生活や社会に関わる事象について、数学的な見方や考え方を働かせ、数学的活動を通して、新しい概念を形成したり、よりよい方法を見いだしたりするなど、新たな知識・技能を身に付け、知識の構造や思考、態度が変容することが求められる。

例えば・・・

- ・数学を活用して問題を解決し、得られた結果の意味を元の事象や既習の知識と結び付けて捉えなおし知識や方法を統合し、さらに発展する活動を設けること。このような活動を繰り返すことによって数学的な見方や考え方も成長する。

子供同士の協働、教師や地域のひととの対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自らの考えを広げ深める「対話的な学び」が実現できているか。

例えば・・・

- ・事象を数学的な概念や法則を用いて考え、判断し、その理由を互いに説明し伝え合う活動を設けること。
- ・数学的な表現に基づいて説明することで、簡潔・明瞭・的確に自分の考えを表現できることを実感する活動を設けること。
- ・自分では思いつかなかった友達のを理解してよりよく問題解決できることを実感する活動を設けること。
- ・一人一人の子供の表現を教室全体で数学的に洗練することにより、客観的で合理的な説明に高め合う活動を設けること。

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連づけながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自らの学習活動を振り返って次につなげる「主体的な学び」が実現できているか。

例えば・・・

- ・問題を解決して得られた結果を意味づけたり、活用したりする活動を設けること。
- ・問題解決の過程を振り返り、数学的な見方や考え方のよさを見いだす活動を設けること。さらに、見いだした事柄を既習の事柄と結び付け概念が広がったり、深まったりしたことを実感できる活動を設けること。
- ・事象を数学的に捉えたり、学んだ数学を日常生活や社会で活用したりする学習などを通して、様々な場面において数学が役立つことを実感する機会を設けること。
- ・数学的な見方や考え方が、将来の様々な学習、職業や社会生活において幅広く活用され利用されていることを知る機会を設けること。

資質・能力の育成のために重視すべき 算数・数学の評価の在り方について(案)

表:各教科等の評価の趣旨

評価の観点 (論点整理)	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
高等学校 数学	<ul style="list-style-type: none"> ・数学における基本的な概念や原理・法則などを体系的に理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり表現したりする技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事象を数学を活用して論理的に考察する力、思考の過程を振り返って本質を明らかにし統合的・発展的に考察する力を身に付けている。 ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを認識し、数学を活用して粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとする。 ・問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする。
中学校 数学	<ul style="list-style-type: none"> ・数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則などを理解している。 ・事象を数学化したり、数学的に解釈したり表現したりする技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事象を数学を活用して論理的に考察する力、数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力を身に付けている。 ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさを実感し、数学を活用して粘り強く考え、生活や学習に生かそうとする。 ・問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする。
小学校 算数	<ul style="list-style-type: none"> ・数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解している。 ・日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の事象を数理的にとらえ見通しをもち筋道を立てて考察する力、基礎的・基本的な数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力を身に付けている。 ・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり柔軟に表したりする力を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・数学のよさに気づき、算数の学習を生活や学習に活用しようとする。 ・学習の過程と成果を振り返ってよりよく問題解決しようとする。

問題発見・解決
のプロセス

疑問や問いの発生
問題の設定

問題の理解， 解決の計画

計画の実行
結果の検討

解決過程や結果の振り返り
新たな疑問や問い、推測などの発生

次の問題解決へ

※必ずしも一方通行の流れではない

算数・数学の内容を深める

日常生活や社会の事象を数理的に捉え，数学的に処理し，問題を解決することができる。

数学の事象について統合的・発展的に考え，問題を解決することができる。

知識・技能

・事象を数学化したり、数学的に解釈したり表現したりする
技能を身に付けている。

・数学における基本的な概念や原
理・法則などを体系的に理解して
いる。

思考・判断・表現

・事象を数学を活用して論理的に考察する力を身に
付けている。

・思考の過程を振り返って本質を明らかに
し統合的・発展的に考察する力を身に付
けている。

主体的に学習に
取り組む態度

・数学のよさを認識し、数学を活用して粘り強く考え、数学的論拠に基づき判断しようとする。

・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。

・問題解決の過程を振り返って評
価・改善しようとする。

* 問題解決の過程における資質・能力の評価は、必ずしもすべての場面で実施する必要はなく、特に育成したい資質・能力に焦点化してもよい。

問題発見・解決
のプロセス



日常生活や社会の事象を数理的に捉え，数学的に処理し，問題を解決することができる。

数学の事象について統合的・発展的に考え，問題を解決することができる。

知識・技能

・事象を数学化したり，数学的に解釈したり表現したりする技能を身に付けている。

・数量や図形などに関する基礎的な概念や原理・法則などを理解している。

思考・判断・表現

・事象を数学を活用して論理的に考察する力を身に付けている。

・数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力を身に付けている。

・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を身に付けている。

主体的に学習に
取り組む態度

・数学のよさを実感し，数学を活用して粘り強く考え，生活や学習に生かそうとする。

・問題解決の過程を振り返って評価・改善しようとする。

* 問題解決の過程における資質・能力の評価は，必ずしもすべての場面で実施する必要はなく，特に育成したい資質・能力に焦点化してもよい。

算数・数学における問題発見・解決のプロセスと評価の場面（小学校の算数の評価の趣旨を用いて）

問題発見・解決 のプロセス

疑問や問いの気づき
問題の設定

問題の理解， 解決の計画

計画の実行
解決したことへの検討

解決過程や結果の振り返り
新たな疑問や問いの気付き

次の問題解決へ

※必ずしも一方通行の流れではない

算数・数学の内容を深める

日常生活や社会の事象を数理的に捉え，数学的に処理し，問題を解決することができる。

数学の事象について統合的・発展的に考え，問題を解決することができる。

知識・技能

・日常の事象を数理的に処理する技能を身に付けている。

・数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などを理解している。

思考・判断・表現

・日常の事象を数理的にとらえ見通しをもち筋道を立てて考察する力を身に付けている。

・基礎的・基本的な数量や図形などの性質を見いだし統合的・発展的に考察する力を身に付けている。

主体的に学習に
取り組む態度

・数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表したり柔軟に表したりする力を身に付けている。

・数学のよさに気づき，算数の学習を生活や学習に活用しようとする。

・学習の過程と成果を振り返ってよりよく問題解決しようとする。

* 問題解決の過程における資質・能力の評価は，必ずしもすべての場面で実施する必要はなく，特に育成したい資質・能力に焦点化してもよい。

小学校 算数

例えば好きなスポーツ調べをクラスごとに調査した結果を、コンピュータを用いて、棒グラフや帯グラフなどいろいろなグラフを作成し、自分が主張したいことを表すのに適切なグラフを選ぶ。(第5学年など)

図形を動的に動かすことで、平行四辺形と長方形など図形の相互の関係を実感的に理解する。(第4学年など)

円を直径で切って移動して長方形のように並べるとき、より細かく切ることによって長方形にどんどん近づいていくことを理解する。(第6学年)

教材提示装置により手元を大きくうつすことができるので、コンパスの使い方をわかりやすく示す。

教室内のネットワークの活用により、タブレットに書いたある考えを、クラス全員のタブレットに表示することで、全体で共有する。

中学校 数学

図形ソフトを用いて、同一円周上の点を動かしたときの円周角と中心角の大きさを調べるなどして、いつでも成り立つ関係について予想を立てる。

グラフが表示できる電卓を用いて関数式の係数の値を変化させたときにグラフがどのように変化するかを連続的に調べたり、方程式の解を簡単に求めたりする。

関数の学習で、表、式、グラフの関連を有機的に示したり、センサーを取り付けて動的な事象に対する資料の収集に利用したりする。

ヒストグラムから目的に応じて資料の傾向を的確に読み取る際に、階級の幅の異なる複数のヒストグラムを作り検討する。

標本調査において母集団から標本を抽出する際に必要な乱数を簡単に数多く得る。

高等学校 数学

数学「二次関数」で、二次不等式の解法を考察する場合、対応する二次関数のグラフを表示して生徒の解法の誤りなどを議論させ理解を深める。

数学「図形と方程式」で、例えば2直線の交点の軌跡を求める場合、実際に交点の軌跡を表示することによって軌跡を求めるときの留意点を確認するなど、その方法の理解を深める。

数学「極限」で、複雑な数列の極限を実際に各項の値を表示し値の変化の様子を確認することを通して、極限を求める方法の理解を深め、その方法のよさを実感する。

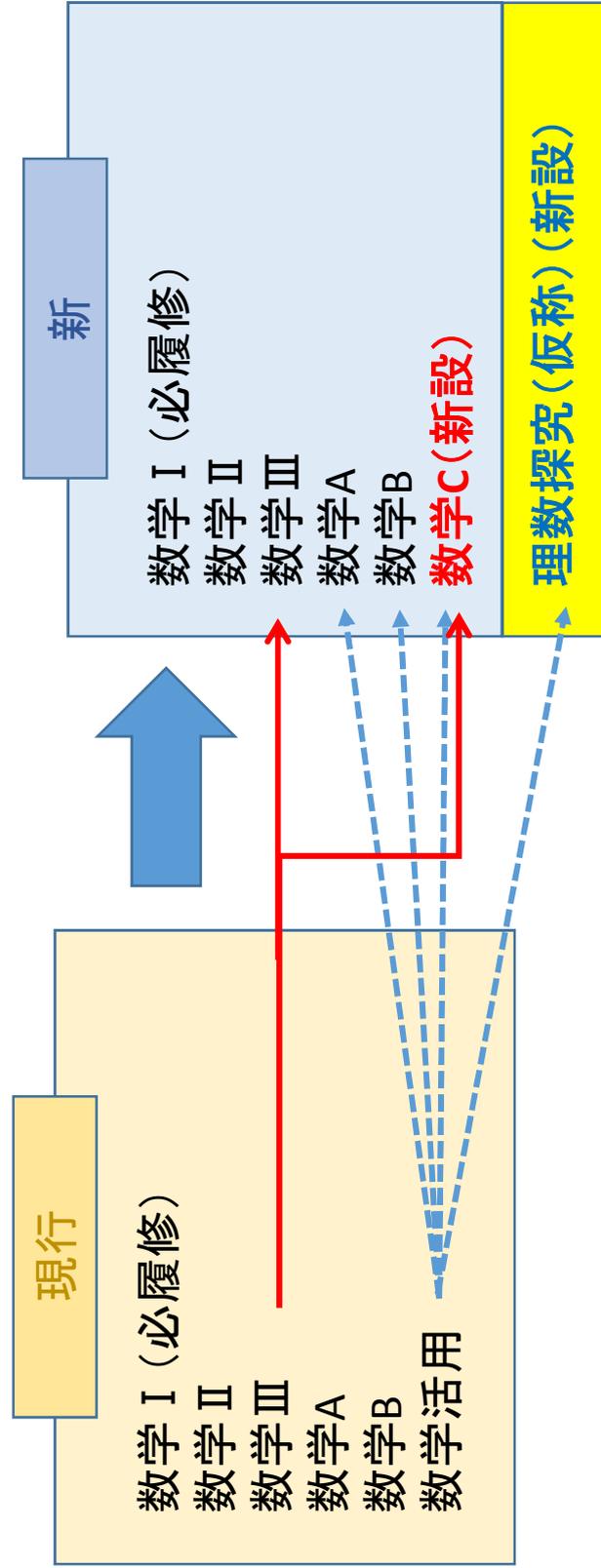
統計的な内容で、生徒が自分が設定した問題を解決する際に必要なデータを安全なサイトから収集し、それを分析・解釈し、分かりやすく結論をまとめて発表する。

科目構成の見直しについて(案)

平成28年5月13日
 教育課程部 会
 算数・数学ワーキンググループ

資料2

高等学校数学科



- 理数探究(仮称)の創設に伴い数学活用を廃止
- 数学Cを新たに設置し, 数学活用の内容を数学A, 数学B, 数学Cのいずれかに移行
- 数学Cは, 「平面上の曲線と複素数平面」や「データの活用(仮称)」などで構成
- 数学Bの統計的な内容を数学Cに移行することについて検討
- 統計的な内容については, 特に情報科などとの連携を重視

理科ワーキンググループにおける検討事項

1. 理科を通じて育成すべき資質・能力について
 - ・理科を学ぶ本質的な意義や他教科との関連性について
 - ・三つの柱に沿った育成すべき資質・能力の明確化について
 - i) 何を知っているか、何ができるか（個別の知識・技能）
 - ii) 知っていること・できることをどう使うか（思考力・判断力・表現力等）
 - iii) どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか（学びに向かう力、人間性など）
 - ・幼稚園・小学校・中学校・高等学校を通じた理科において育成すべき資質・能力の系統性について

2. アクティブ・ラーニングの三つの視点を踏まえた、資質・能力の育成のために重視すべき理科の指導等の改善充実の在り方について

3. 資質・能力の育成のために重視すべき理科の評価の在り方について

4. 必要な支援（特別支援教育の観点から必要な支援等を含む）、条件整備等について

理科教育のイメージ (20160420案)

【高等学校】

《発展:explore science》(Especially Science for Interested students:世界をリードする人材として)

- 科学的課題に徹底的に向き合い、考え抜いて行動する態度を養う。科学的な探究能力を活用して、専門的な知識と技能の深化・統合を図るとともに、自発的・創造的な力を養う。
- 科学的な探究能力の育成を主体的に図ることができる「課題研究」を充実させる。(理科, 理数探究(仮称))

《応用:advanced science》(Science for Interested students:科学技術立国としての日本を支える人材として)

- 自然の事物・現象について、科学的に探究する能力と態度を養うとともに、論理的な思考力や創造性の基礎を養う。
- 「観察・実験」や「探究活動」を一層充実させて、科学的な探究能力の育成を図る。また、日常生活や他教科(数学, 情報, 保健体育, 地理など)との関連を図る。

《基礎:basic science》(Science for All students:善良な市民として)

- 自然の事物・現象について、問題を明確にして課題を設定し、根拠に基づく結論を導き出す過程を通して、意思決定を行うことができる力を育てるとともに、科学的な見方や考え方を養う。
- ①概念や原理・法則の体系的な理解と科学的探究についての理解や、探究のために必要な観察・実験等の基本的な技能を養う。
- ②目的意識をもって観察・実験し、科学的な根拠をもとに表現したりする力を養う。
- ③自然に対する畏敬の念を持ち、科学の必要性や有用性を認識するとともに、科学的根拠に基づき、多面的・総合的に判断する態度を養う。
- 中学校で身に付けた資質・能力を活用して、科学的な探究のプロセスを体験させる「観察・実験」や「探究活動」を充実させる。また、日常生活や他教科(数学, 情報, 保健体育, 地理など)との関連を図る。

【中学校】

○ 自然の事物・現象について、問題を明確にして課題を設定し、根拠に基づく結論を導き出す過程を通して、科学的な見方や考え方を養う。

- ①概念や原理・法則の基本的な理解や観察・実験等の基本的な技能を養う。
- ②目的意識をもって観察・実験し、得られた結果を分析・解釈する力を養う。
- ③自然を敬い、自然の事物・事象にすすんでかかわり、科学的に探究する態度と根拠に基づき判断し表現する態度を養う。

● 小学校で身に付けた、比較・分類、関係付け、条件制御などの資質・能力をさらに高め、自然事象の把握、問題の設定、予想・仮説の設定、検証計画の立案、観察・実験の実施、結果の処理、考察・推論、表現等の学習活動を充実する。また、日常生活や他教科との関連を図る。
例えば、1年:自然の事物・事象に見いだす。2年:解決方法を立案して実行し、結果の妥当性を検討する。3年:探究の過程を振り返り、その妥当性を検討する。

【小学校】

○ 自然の事物・現象について、問題を見いだし、より妥当な考えを導き出す過程を通して、科学的な見方や考え方を養う。

- ①自然の事物・現象についての理解を図り、観察・実験等の基本的な技能を養う。
- ②見通しをもって的確に観察・実験などを行い、問題解決の能力を養う。
- ③自然を大切にし、生命を尊重する態度、科学的に探究する態度、妥当性を検討する態度を養う。

● 観察・実験の結果を整理し考察し表現する態度を養う。また、日常生活や他教科との関連を図る。

● 問題解決の能力、例えば、3年:差異点や共通点に気づき問題を思いだす力、4年:既習事項や生活経験を基に根拠のある予想や仮説を発想する力、5年:質的変化や量的変化、時間的変化に着目して解決の方法を発想する力、6年:要因や規則性、関係を多面的に分析して考察し、より妥当な考えをつくりだす力を育成する学習活動を充実する。

(小学校低学年)

例えば、【生活科】

- 自然とのかかわりに関心をもち、自然を大切にしたり、その不思議さに気づいたりして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに関心し、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできる。
- 身近な自然を観察したり、季節や地域の行事にかかわる活動を行ったりして、四季の変化や季節によって生活の様子が変わることに関心し、自分たちの生活を工夫したり楽しくしたりできる。
- 身近にある自然を利用したり、身近にある物を使ったりなどして、遊びや遊びに使う物を工夫して作り、その面白さや自然の不思議さに気づき、みんなで遊びを楽しむことができるようにする。
- 動物を飼ったり植物を育てたりして、それらの育つ場所、変化や成長の様子に関心をもち、また、それらは生命をもっていることや成長していることに気づき、生きものへの親しみをもち、大切にすることができるようにする。

【幼稚園】

(教育課程部会幼児教育部会において、本部会での議論を踏まえ、幼児期に育みたい資質・能力、幼児期の終わりに育ってほしい姿の明確化について審議)

- ・身近な事象に好奇心や探究心を持って思いを巡らしながら積極的に関わり、物の性質や仕組み等に気づいたり、予想したり、工夫したりなどして多様な関わりを楽しむように、友達と考えを思い合わせたりして、新しい考えを生み出す喜びを感じながら、よりよいものにするようになる。
- ・自然に触れて感動する体験を通して、自然の変化などを感じ取り、身近な事象への関心が高まりつつ、自然への愛情や畏敬の念を持つようになる。
- ・身近な動植物を命あるものとして、いたわり大切にすることを大切にする。

改善のためのPDCAサイクル

改善のためのPDCAサイクル

改善のためのPDCAサイクル

理科	知識や技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力、人間性等	資質・能力の育成のために重視すべき学習過程等の例
<p>高等学校</p>	<p><選択科目></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 知識・技能の深化 ● 高等学校理科における概念や原理・法則の体系的理解 <p><必修科目></p> <ul style="list-style-type: none"> ● 高等学校理科における基本的な概念や原理・法則の体系的な理解 ● 科学的探究についての理解 ● 探究のために必要な観察・実験等の技能 	<ul style="list-style-type: none"> ● 科学的な探究能力(論理的・分析的・統合的に考察する力) ● 新たなものを創造しようとする力 <ul style="list-style-type: none"> ● 科学的な見方や考え方, 自然に対する多面的なものを見方 ● 自然の事象を目的意識を持って観察・実験し, 科学的に探究したり, 科学的な根拠をもとに表現したりする力 	<ul style="list-style-type: none"> ● 果敢に挑戦する態度 ● 科学的に探究する態度 ● 科学に対する倫理的な態度 <ul style="list-style-type: none"> ● 自然の事物・現象に対する畏敬の念 ● 諦めずに挑戦する態度 ● 日常生活との関連, 科学の必要性や有用性の認識 ● 科学的根拠に基づき, 多面的, 総合的に判断する態度 ● 中学校で身に付けた探究する能力などを活用しようとする態度 	<p>自然事象に対する 気付き 課題の設定 仮説の設定 検証計画の立案 観察・実験の実施 結果の処理 考察・推論 表現・伝達</p> <p>見通し</p> <p>振り返り</p>
<p>中学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 中学校理科における概念や原理・法則の基本的な理解 ○ 科学的探究についての基本的な理解 ○ 探究のために必要な観察・実験等の基礎的な技能(安全への配慮, 器具などの操作, 測定の方法, データの記録・処理等) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自然事象の中に問題を見いだして仮説を設定する力 ○ 計画を立て, 目的意識をもって観察・実験する力 ○ 得られた結果を分析して解釈する力 ○ 科学的に探究する力と科学的な根拠をもとに表現する力 ○ 探究の過程における妥当性を検討するなど総合的に振り返る力 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 自然を敬い, 自然の事物・現象にすぐんがかかわる態度 ○ 粘り強く挑戦する態度 ○ 日常生活との関連, 科学することの面白さや有用性の気付き ○ 科学的根拠に基づき的確に判断する態度 ○ 小学校で身に付けた問題解決の力などを活用しようとする態度 	<p>自然事象に対する 気付き 課題の設定 仮説の設定 検証計画の立案 観察・実験の実施 結果の処理 考察・推論 表現</p> <p>見通し</p> <p>振り返り</p>
<p>小学校</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自然事象に関する性質や基本的な概念, 規則性などの体系的な理解 ■ 理科を学ぶ意義の理解 ■ 科学的に問題解決を行うために必要な観察・実験等器具などの操縦(安全への配慮, データの記録等) 	<p>(各学年で主に育てたい力)</p> <p>6年: 自然の事物・現象の变化や働きについてその要因や規則性, 関係性を多面的に分析し考察したり, より妥当な考えをつくりだす力</p> <p>5年: 予想や仮説などをもとに質的変化や量的変化, 時間的変化に着目して解決の方法を着想する力</p> <p>4年: 見いだした問題について既習事項や生活経験をもとに根拠のある予想や仮説を着想する力</p> <p>3年: 比較を通して自然の事物・現象の差異点や共通点に気付き問題を発見する力</p>	<ul style="list-style-type: none"> ■ 自然に親しむ態度 ■ 失敗してもくじけずに挑戦する態度 ■ 科学することの面白さ ■ 科学的な根拠に基づき判断する態度 ■ 問題解決の過程に関してその妥当性を検討する態度 ■ 知識・技能を実際の自然事象や日常生活などに適用する態度 ■ 多面的, 総合的な視点から自分の考えを改善する力 	<p>自然事象に対する 気付き 問題の見だし 予想・仮説の設定 検証計画の立案 観察・実験の実施 結果の整理 考察や結論の導出</p> <p>見通し</p> <p>振り返り</p>

平成28年4月26日
養育課補部
福井ワーキンググループ

資料7-2

理科における見方や考え方(案)

自然の事物・現象を量的・関係的、質的・実体的、多様性・共通性、時間的・空間的などの視点で捉え、探究の過程を通して科学的に考え、多面的、総合的、発展的に考察すること

高等学校 理科	自然の事物・現象を量的・関係的、質的・実体的、多様性・共通性、時間的・空間的などの視点で捉え、探究の過程を通して科学的に考え、多面的、総合的、発展的に考察すること
中学校 理科	自然の事物・現象を量的・関係的、質的・実体的、多様性・共通性、時間的・空間的などの視点で捉え、探究の過程を通して科学的に考え、多面的、総合的、発展的に考察すること
小学校 理科	自然の事物・現象を量的・関係的、質的・実体的、多様性・共通性、時間的・空間的などの視点で捉え、問題解決の過程を通して科学的に考え、多面的、総合的、発展的に考察すること

13 理科の各領域における特徴的な見方 (案)

- 1 科学の目的
科学の目的は、自然事象を説明できる法則や理論を構築していくこと
- 2 理科の各領域における特徴的な見方を考える前提：法則や理論の構築という視点から整理することが必要

表1 理科の各領域における特徴的な見方

		領域			
		エネルギー	粒子	生命	地球
見方・考え方		自然の事象・現象を主として <u>量</u> <u>的・関係的な視点</u> で捉える ＊高等学校では、事象をより包括的・高次的に捉える	自然の事象・現象を主として <u>質</u> <u>的・実体的な視点</u> で捉える ＊中学校から実体はあるが見えない(不可視)レベルの原子,分子レベルで事象を捉える ＊高等学校では、事象をより包括的・高次的に捉える	生命に関する自然の事象・現象を主として <u>多様性と共通性の視点</u> で捉える ＊「分子～細胞～個体～生態系レベル」の階層性があり,小・中・高と上がるにつれて扱う階層が広がる	地球や宇宙に関する自然の事象・現象を主として <u>時間的・空間的な視点</u> で捉える ＊「身のまわり～地球～宇宙レベル」の階層性があり,小・中・高と上がるにつれて扱う階層が広がる
		学校段階の違い (内容の階層性の広がり)			
小学校		「見える (可視) レベル」	「物レベル」	「個体～生態系レベル」	「身のまわり (見える) レベル」
中学校		「見える (可視) ～見えない (不可視) レベル」	「物～物質レベル」	「細胞～個体～生態系レベル」	「身のまわり (見える) ～地球 (地球周辺) レベル」
高等学校		「見える (可視) ～見えない (不可視) レベル」	「物質レベル」(マクロとミクロの視点)	「分子～細胞～個体～生態系レベル」	「身のまわり (見える) ～地球 (地球周辺) ～宇宙レベル」

表2 理科の各領域における特徴的な見方の整理例

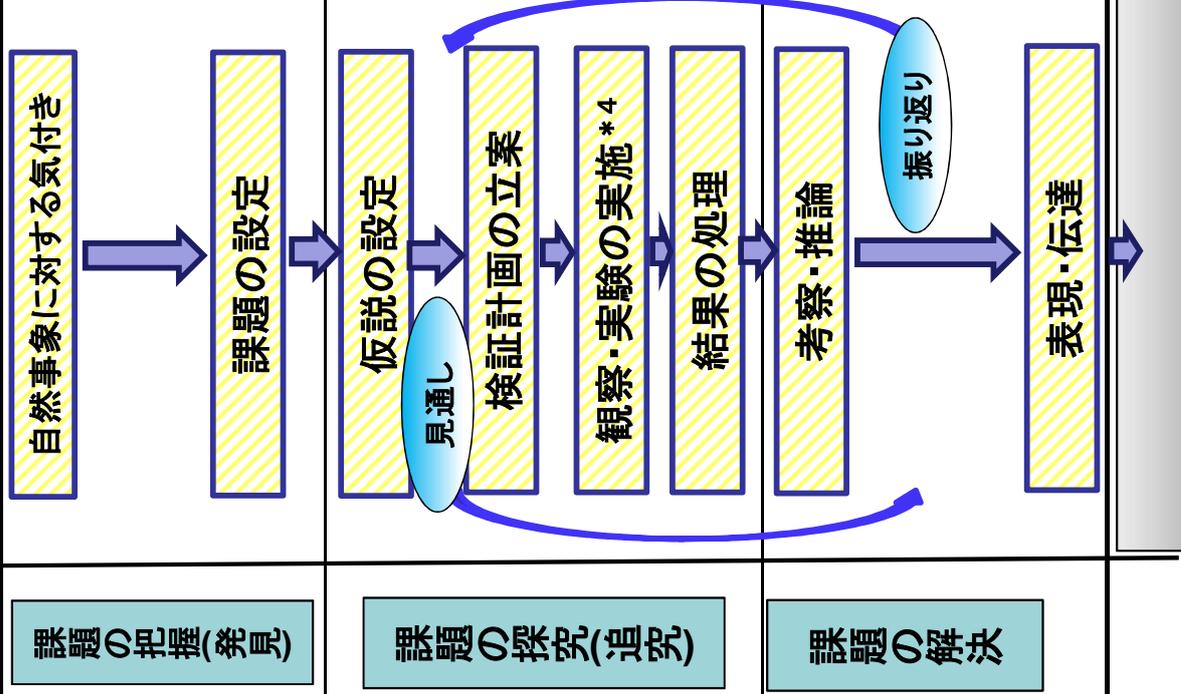
20160329

		領域			
		エネルギー	粒子	生命	地球
見方	自然の事物・現象を主として量的・関係的な視点で捉える	自然の事物・現象を「見える(可視)レベル」において、主として量的・関係的な視点で捉える	自然の事物・現象を主として質的・実体的な視点で捉える	生命に関する自然の事物・現象を主として多様性と共通性の視点で捉える	地球や宇宙に関する自然の事物・現象を主として時間的・空間的な視点で捉える
	【事例】 豆電池の明るさについて、電池の数(量)や直列・並列つなぎの関係で捉える	例：豆電池の明るさについて、電池の数(量)や直列・並列つなぎの関係で捉える	例：形が変わっても重さは変わらないことから実体として存在することを捉える	例：昆虫や植物の成長や体のつくりについて、多様性と共通性の視点で捉える	例：土地のつくりや変化について、侵食・運搬・堆積の関係を時間的・空間的な視点で捉える
中学校	自然の事物・現象を「見える(可視)レベル～見えない(不可視レベル)」において、主として量的・関係的な視点で捉える	自然の事物・現象を「見える(可視)レベル～見えない(不可視レベル)」において、主として量的・関係的な視点で捉える	自然の事物・現象を「物～物質レベル」において、主として質的・実体的な視点で捉える	生命に関する自然の事物・現象を「細胞～個体～生態系レベル」において、主として多様性と共通性の視点で捉える	地球や宇宙に関する自然の事物・現象を「身のまわり(見える)～地球(地球周辺)レベル」において、主として時間的・空間的な視点で捉える
	【事例】 電気が抵抗に関する現象について、電流、電圧、抵抗(量)の関係をオームの法則の関係で捉える	例：電気が抵抗に関する現象について、電流、電圧、抵抗(量)の関係をオームの法則の関係で捉える	例：物質やその変化について、原子や分子を化学変化で実体的に捉える	例：植物や動物の体のつくりと働きについて、多様性と共通性の視点で捉える	例：地層の重なりについて、時間的・空間的な視点で捉える
高等学校	自然の事物・現象を「見える(可視)レベル～見えない(不可視レベル)」において、主として量的・関係的な視点で捉えるとともに、より包括的・高次的に捉える	自然の事物・現象を「見える(可視)レベル～見えない(不可視レベル)」において、主として量的・関係的な視点で捉えるとともに、より包括的・高次的に捉える	自然の事物・現象を「物質レベル」において、主として質的・実体的な視点で捉えるとともに、より包括的・高次的に捉える	生命に関する自然の事物・現象を「分子～細胞～個体～生態系レベル」において、主として多様性と共通性の視点で捉える	地球や宇宙に関する自然の事物・現象を「身のまわり(見える)～地球(地球周辺)～宇宙レベル」において、主として時間的・空間的な視点で捉える
	【事例】 電気が抵抗に関する現象について、物質の違いから包括的・高次的に捉える	例：電気が抵抗に関する現象について、物質の違いから包括的・高次的に捉える	例：物質の構成粒子について、原子の構造や電子配列から包括的・高次的に捉える	例：生物と遺伝子について、多様性と共通性の視点で捉える	例：プレート運動や火山活動と地震について、時間的・空間的な視点で捉える

学習活動例(主体的な課題解決)*1
見通しと振り返りの例

理科における資質・能力の例*2

協働的な学びの例*3



● 主体的に対象とかかわろうとしたり、観察しようとする態度
● 対象を観察し、必要な情報を抽出・収集する力
● 抽出・収集した情報について、それらの関係性(共通点や相違点など)や傾向を見いだす力

● 見出した関係性や傾向から、課題を設定する力

● 見通しを持ち、検証できる仮説を設定する力

● 仮説を確かめるための観察・実験の計画を立案する力
● 観察・実験の計画を評価・選択・決定する力

● 観察・実験を実行する力

● 観察・実験の結果を処理する力

● 観察・実験の結果を分析・解釈する力
● 情報収集して仮説の妥当性を検討したり、考察したりする力
● 全体を振り返って推論したり、改善策を考えたりする力
● 新たな知識やモデル等を創造したり、次の課題を発見したりする力
● 事象や概念等に対する新たな知識を再構築したり、獲得したりする力
● 学んだことを日常生活や社会に活用しようとする態度

● 考察・推論したことや結論を発表したり、レポートにまとめたりする力

意見交換・議論

意見交換・議論

意見交換・議論

意見交換・議論

調査

意見交換・議論

意見交換・議論

研究発表
相互評価

次の探究のプロセス

*1 探究の過程は、必ずしも一方向の流れではない。また、授業では、そのプロセスの一部のみを扱ってもよい。

*2 全ての学習過程において、今までに身に付けた資質・能力や既習の知識・技能を活用する力が求められる。

*3 意見交換や議論の際には、あらかじめ個人で考えられること、他者とのかわりの中で自分の考えをより妥当なものにする力が求められる。

*4 単元内容や題材の関係で観察・実験が扱えない場合も、論理的に検討を行うなど、探究の過程を経ることが重要である。

資質・能力の育成のために重視すべき理科の評価の在り方について（案）【たたき台】

表：各教科等の評価の趣旨

評価の観点（論点整理）	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
高等学校 理科	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象について、概念や原理・法則を体系的に理解し、知識を身に付けている。 ・観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象の中に問題を見いだし、目的意識をもって観察、実験などを行い、科学的に探究し、導き出した考えを根拠をもとに的確に表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象に主体的にかかわり、それらを科学的に探究しようとするとともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能を日常生活や社会に生かそうとしている。
中学校 理科	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象について、概念や原理・法則の基本を理解し、知識を身に付けている。 ・観察、実験などを行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能の基礎を身に付けている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象の中に問題を見いだし、目的意識をもって観察、実験などを行い、得られた結果を分析して解釈し、導き出した考えを根拠をもとに表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象に進んでかわり、それらを科学的に探究しようとするともに、探究の過程などを通して獲得した知識・技能を日常生活に生かそうとしている。
小学校 理科	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象の性質や規則性、相互の関係などについて理解している。 ・観察、実験などを行い、器具や機器を目的に応じて扱うとともに、それらの過程や結果を的確に記録している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然の事物・現象の中に問題を見いだし、見通しをもって観察、実験などを行い、得られた結果を考察し、より妥当な考えを表現している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自然に親しみ、積極的に自然の事物・現象を調べようとするともに、問題解決の過程などを通して獲得した知識・技能を身の回りの自然の事物・現象の把握に生かそうとしている。

平成28年3月29日
 評価部

第5巻